Canon

EOS-1D C



● 別冊の「EOS-1D X使用説明書」、「EOS-1D X有線LAN説明書」も合わせてお読みください。
● 巻末に「ソフトウェアスタートガイド」を掲載しています。

J

使用説明書

はじめに

EOS-1D Cは、EOS DIGITAL最高峰のEOS-1D Xをベースに、動画機能の強化を図ったデジタル一眼レフカメラです。

有効画素数約1810万画素・約36×24mmフルサイズCMOSセンサーによる、美しく印象的なボケ味、低照度下での撮影を実現する高感度性能、4K（4096×2160画素）動画記録、フルHD 60p/50p、スーパー35mmクロップ、Canon Logガンマ、HDMIによる非圧縮映像の出力など、先進の動画機能を備えています。

また本機は、高度な撮影に最適対応する豊富な撮影機能、映像制作機材として小型・軽量を活かした機動性、過酷な環境下での撮影を実現する高い信頼性、撮影領域を拡大する幅広いシステム拡張性、多彩な業務ワークフローへの適応性など、さまざまな特長を備えています。

操作しながら本書を参照すると理解が深まります

デジタルカメラは、撮影した結果をその場ですぐに見ることができます。本書を読みながら実際に撮影し、その結果を確認しながら理解を深め、操作に慣れてください。

なお、撮影の失敗や事故を未然に防ぐため、はじめに別紙の『安全上のご注意』、および『取り扱い上のご注意』（8、9ページ）をお読みください。

試し撮りと撮影内容の補償について

撮影後は画像を再生して、画像が正常に記録されていることを確認してください。万一、カメラ（本機）やメモリーカードなどの不具合により、画像の記録やパソコンへの画像の取り込みができなかった場合の記録内容の補償については、ご容赦ください。

著作権について

あなたがカメラ（本機）で記録した権利者のいる被写体の画像は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示会などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

CFカードについて

本書では、CFカードのことを「カード」と表記しています。なお、画像を記録する**CFカードは付属していません。**別途ご購入ください。

使用説明書について

EOS-1D Cには、「①EOS-1D C使用説明書（本書）」、「②EOS-1D X使用説明書」、「③EOS-1D X有線LAN使用説明書」の3冊の使用説明書が付属しています。

動画撮影を行うときは、①を参照してください。なお、①に記載されていない基本操作や静止画撮影、再生機能、有線LAN機能などについては、基本的にEOS-1D Xと共通仕様ですので、②③を参照してください。

● カメラ／有線LAN使用説明書

動画撮影



① EOS-1D C
使用説明書（本書）

＋

基本操作／静止画撮影
／再生機能など



② EOS-1D X
使用説明書
（Ver.1.1.0以上）

＋

有線LAN機能



③ EOS-1D X
有線LAN
使用説明書

● ソフトウェア使用説明書



ソフトウェア
使用説明書
「CD-ROM」

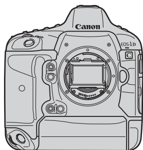
ソフトウェアの使用説明書は、電子マニュアル（PDF形式）でCD-ROMに収録されています。

各種ソフトウェアの内容と、パソコンへのインストール方法、およびソフトウェア使用説明書「CD-ROM」の見かたについては、93～96ページを参照してください。

EOS-1D Cに付属のソフトウェアは、EOS-1D Xに付属のソフトウェアと異なりますので、本書93～96ページの「ソフトウェアスタートガイド」を参照してください。

カメラと主な付属品

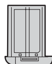
使用する前に、以下のものがすべてそろっているか確認してください。万一、足りないものがあるときは、お買い求めの販売店にご連絡ください。



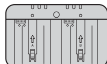
カメラ
（ボディキャップ、電池室キャップ付き）



アイカップEg



電池
バッテリーパック
LP-E4N
（保護カバー付き）



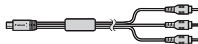
充電器
バッテリー
チャージャー
LC-E4N
（保護カバー付き）



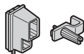
ワイドストラップ
L7



インターフェースケーブル
IFC-200U



ステレオAVケーブル
AVC-DC400ST



ケーブル
プロテクター／
クランパー



EOS DIGITAL Solution Disk
（ソフトウェア）



ソフトウェア使用説明書


①


②


③

① **EOS-1D C使用説明書**（本書）
② **EOS-1D X使用説明書**
③ **EOS-1D X有線LAN使用説明書**

※ アイカップEgをファインダー接眼部に取り付けてください。
※ 付属品は、なくさないように注意してください。

有線LAN機能について

Ethernet用RJ-45端子を使用した有線LAN機能については、別冊の『有線LAN使用説明書』を参照してください。

本使用説明書上のおことわり

本文中の絵文字について

〈⌒〉　：メイン電子ダイヤルを示しています。
〈◎〉　：サブ電子ダイヤルを示しています。
〈✣〉　：マルチコントローラーを示しています。
〈SET〉　：設定ボタンを示しています。
⏱4／⏱6／⏱10／⏱16：操作ボタンから指を離したあとに、ボタンを押した状態がそれぞれ4秒／6秒／10秒／16秒間保持されることを示しています。

* その他、本文中の操作ボタンや設定位置の説明には、ボタンや液晶モニターの表示など、カメラで使われている絵文字を使用しています。

MENU　：〈MENU〉ボタンを押して設定変更する機能であることを示しています。

(p.**)　：本書の参照ページを示しています。

(1DX p.**)：EOS-1D X使用説明書の参照ページを示しています。

❗　：撮影に不都合が生じる恐れのある注意事項を記載しています。

📄　：補足説明や補足事項を記載しています。

💡　：上手に使うためのヒントや撮影のポイントを記載しています。

?　：困ったときの手助けになる事項を記載しています。

操作説明の前提について

- EFレンズの使用を前提に説明しています。
- 電源スイッチが〈ON〉になっていることを前提に説明しています。
- メニュー機能やカスタム機能が初期状態になっていることを前提に説明しています。
- 本文中のイラストは、EF50mm F1.4 USMレンズを取り付けた状態で説明しています。

❗ EFシネマ（CN-E）レンズ使用時の注意事項については、17、29ページを参照してください。

目 次

取り扱い上のご注意

カメラについて

- カメラは精密機器です。落としたり衝撃を与えたりしないでください。
- このカメラは防水構造になっていませんので、水中では使用できません。万一水に濡れてしまったときは、早めに修理お問い合わせ専用窓口にご相談ください。また、水滴が付いたときは乾いたきれいな布で、潮風にあたったときは固くしぼったきれいな布でよくふきとってください。
- カメラを磁石やモーターなどの強力な磁気が発生する装置の近くに、絶対に置かないでください。また、電波塔などの強い電波が発生しているところで使用したり、放置したりしないでください。電磁波により、カメラが誤動作したり、記録した画像データが破壊されることがあります。
- 直射日光下の車の中などは予想以上に高温になります。カメラの故障の原因になることがありますので、このような場所にカメラを放置しないでください。
- カメラには精密な回路が内蔵されていますので、絶対に自分で分解しないでください。
- 指などでミラーの動作を阻害しないでください。故障の原因になります。
- レンズ、ファインダー、ミラー、フォーカシングスクリーンなどにゴミが付いているときは、市販のブロアーで吹き飛ばすだけにしてください。カメラボディおよびレンズは、有機溶剤を含むクリーナーなどでふかないでください。特に汚れがひどいときは、修理お問い合わせ専用窓口にご相談ください。
- カメラの電気接点は手で触らないでください。腐食の原因になることがあります。腐食が生じるとカメラが作動不良を起こすことがあります。
- カメラを寒いところから、急に暑いところに移すと、カメラの外部や内部に結露（水滴）が発生することがあります。カメラを寒いところから、急に暑いところに移すときは、結露の発生を防ぐために、カメラをビニール袋に入れて袋の口を閉じ、周囲の温度になじませてから、袋から取り出してください。
- 結露が発生したときは、故障の原因になりますので、カメラを使用しないでください。レンズ、カード、電池をカメラから取り外し、水滴が消えるまで待ってから、カメラを使用してください。
- カメラを長期間使用しないときは、カメラから電池を取り出し、風通しが良く、涼しい乾燥した場所に保管してください。保管期間中でも、ときどきシャッターを切るようにして作動することを確認してください。
- カメラの保管場所として、実験室などのような薬品を扱う場所は、さび・腐食などの原因になるため避けてください。
- 長期間使用しなかったカメラは、各部を点検してから使用してください。長期間使用しなかったあとや、海外旅行など大切な撮影の前には、各部の作動をご自身でチェックするか、修理お問い合わせ専用窓口にご相談いただいてからご使用ください。

表示パネルと液晶モニターについて

- 液晶モニターは、非常に精密度の高い技術で作られており 99.99% 以上の有効画素がありますが、0.01%以下の画素欠けや、黒や赤の点が現れたままになることがあります。これは故障ではありません。また、記録されている画像には影響ありません。
- 液晶モニターを長時間点灯したままにすると、表示していた内容の像が残ることがあります。この残像は一時的なもので、カメラを数日間使用しないでおくと自然に消えます。
- 液晶の特性で低温下での表示反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されます。

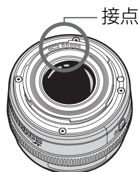
カードについて

カードとその中に記録されているデータを保護するために、次の点に注意してください。

- 「落とさない」、「曲げない」、「強い力や衝撃、振動を加えない」、「濡らさない」。
- テレビやスピーカー、磁石などの磁気を帯びたものや、静電気の発生しやすいところで保管、使用しない。
- 直射日光のあたる場所や、暖房器具の近くに放置しない。
- ケースなどに入れて保管する。
- 温度の高いところ、ほこりや湿気の多いところに保管しない。

レンズについて

レンズを取り外したときは、接点やレンズ面を傷つけないように、取り付け面を上にして置き、ダストキャップを取り付けてください。



長時間使用時のご注意

連続撮影を長時間繰り返したり、ライブビュー撮影や動画撮影を長時間行うと、カメラの温度が高くなることがあります。これは故障ではありませんが、長時間皮膚が触れたままになっていると、低温やけどの原因になることがありますので、ご注意ください。

各部の名称

レンズ取り付け指標

ミラー

絞り込みボタン

マルチファンクションボタン2

動画撮影用マイク
（p.39）

セルフタイマーランプ

レンズロックピン

シャッターボタン
（p.18）

レンズロック
解除ボタン

レンズマウント

グリップ

接点

縦位置
マルチファンクション
ボタン2

縦位置
絞り込み
ボタン

縦位置操作スイッチ

三脚ねじ穴

〈M-Fn〉縦位置
測距エリア選択モード切り換え／
マルチファンクション／
マルチスポット測光ボタン

ボディ番号

縦位置メイン電子ダイヤル
（p.19）

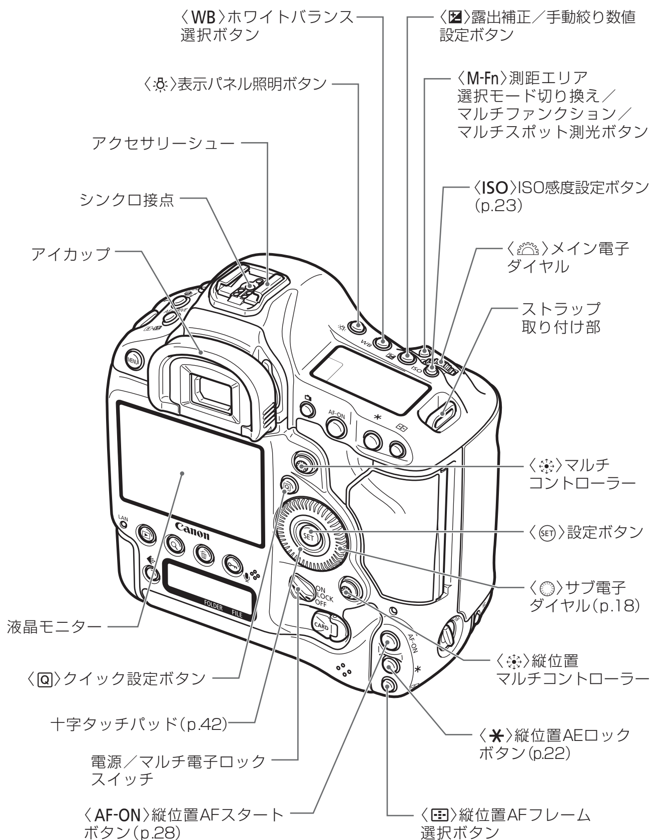
縦位置シャッターボタン
（p.18）

ハンドストラップ取り付け部

アクセサリー位置決め穴



ボディキャップ



* 参照ページ（p.***）が記載されていない部材については、「EOS-1D X使用説明書」を参照してください。

〈⊖〉撮像面マーク

〈◎・⚡〉測光モード選択／ストロボ調光補正ボタン

〈MODE〉撮影モード選択ボタン（p.18）

〈AF・DRIVE〉AFモード選択／ドライブモード選択ボタン

〈AEB〉AEB設定ボタン

拡張システム取り付け穴

上面表示パネル

〈◘〉ライブビュー撮影／動画撮影ボタン（p.16）

〈AF-ON〉AFスタートボタン（p.28）

〈✱〉AEロックボタン（p.22）

〈⊞〉AFフレーム選択ボタン

アイピースシャッターレバー

スピーカー（p.58）

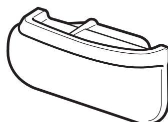
ファインダー接眼部

視度調整つまみ

背面表示パネル

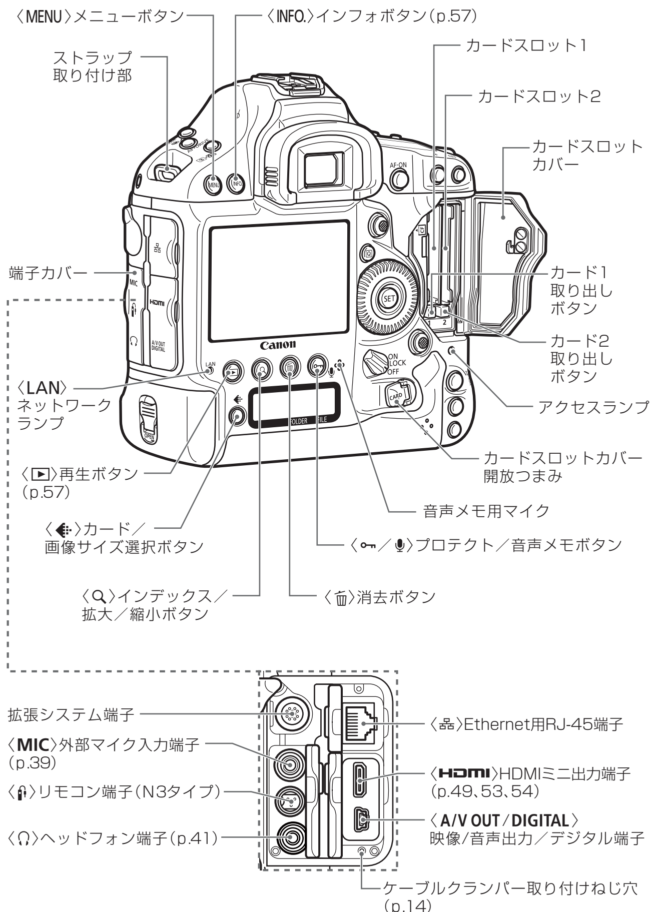
電池着脱つまみ

電池



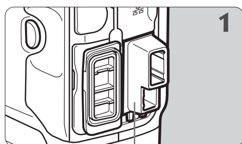
電池室キャップ

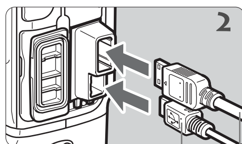
* 上面表示パネル、背面表示パネル、バッテリーパック LP-E4N、バッテリーチャージャー LC-E4Nの各部名称は、1DX 24～28ページを参照してください。

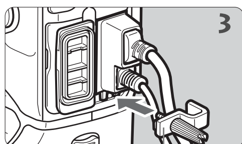

〈MENU〉メニューボタン
〈INFO.〉インフォボタン（p.57）
ストラップ取り付け部
カードスロット1
カードスロット2
カードスロットカバー
端子カバー
カード1取り出しボタン
カード2取り出しボタン
〈LAN〉ネットワークランプ
アクセスランプ
〈▶〉再生ボタン（p.57）
カードスロットカバー開放つまみ
音声メモ用マイク
〈 〉カード／画像サイズ選択ボタン
〈 ／ 〉プロテクト／音声メモボタン
〈Q〉インデックス／拡大／縮小ボタン
〈 〉消去ボタン
拡張システム端子
〈 〉Ethernet用RJ-45端子
〈MIC〉外部マイク入力端子（p.39）
〈HDMI〉HDMIミニ出力端子（p.49、53、54）
〈 〉リモコン端子（N3タイプ）
〈A/V OUT/DIGITAL〉映像/音声出力／デジタル端子
〈 〉ヘッドフォン端子（p.41）
ケーブルクランパー取り付けねじ穴（p.14）

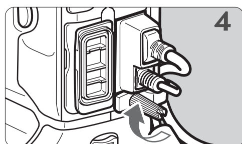
ケーブルプロテクター／クランパーの使い方

キヤノン純正HDMIケーブル（別売）使用時

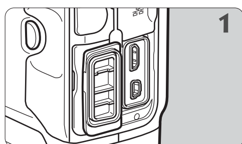


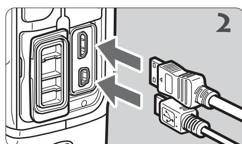


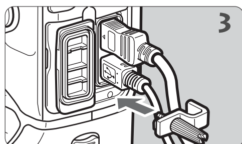


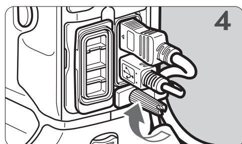


市販品HDMIケーブル使用時









市販品のHDMIケーブルのつまみ部分の形状が、ケーブルプロテクターの形状に適合するときは、ケーブルプロテクターの使用をおすすめします。

1

動画を撮影する／再生する

カメラの液晶モニターに表示される映像を、動画としてカードに記録することができます。記録形式はMOV形式です。



- EFレンズの使用を前提に説明しています。
- EFシネマ（CN-E）レンズを使用するときは、17、29ページに記載の注意事項を確認の上、動画撮影を行ってください。

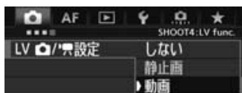
🎥 動画撮影の準備

液晶モニターに表示される映像を動画として記録できるように設定します。静止画撮影については、31ページを参照してください。



1 ［動画］の設定を確認する

- ［📷4］タブを選び、［LV📷/🎥設定］が、［動画］に設定されていることを確認します。



- ［しない］［静止画］に設定されているときは、［動画］を選び、〈SET〉を押します。
- 「LV」は、「ライブビュー」の略です。



2 ［動画記録サイズ］を設定する

- ［動画記録サイズ］については、34ページを参照してください。



3 映像を表示する

- 〈📷〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに映像が表示されます。
- 撮影モードが〈**M**〉のときは、〈メイン電子ダイヤル〉または〈サブ電子ダイヤル〉を回して明るさを調整します。
- 画面の上下または左右に、半透過または黒い帯が表示されます。その内側が動画として記録される範囲です。



- 動画撮影時の注意事項については、27ページを参照してください。
- カードの動作確認情報については、キヤノンのホームページなどを参照してください。

EFシネマ（CN-E）レンズについて

EFシネマレンズの単焦点レンズ使用時は、すべての動画記録画質で撮影することができます。なお、同ズームレンズ使用時は、S35スーパー35mmクロップによる動画撮影のみ行うことができます（イメージサークルが小さいため、4K 1920 1280 640 動画撮影、および静止画撮影を行うと、映像・画像の周辺部分が暗く写ります）。

動画を記録できるカードについて

書き込み／読み取り速度（要求カード性能）が下表の速度以上で、大容量のカードを使用してください。なお、事前にテスト撮影を行い、設定した動画記録画質（p.34）で正しく記録できるかどうか確認してください。

画像サイズ	フレームレート	映像記録／圧縮方式	要求カード性能
4K	24	MJPG Motion JPEG	UDMA7 100MB/秒以上
S35	30／25／24	IPB MPEG-4 AVC/H.264	20MB/秒以上
1920	30／25／24		10MB/秒以上
1280	60／50		
640	30／25		
S35	30／25／24	ALL-I MPEG-4 AVC/H.264	30MB/秒以上
1920	60／50		60MB/秒以上
	30／25／24		30MB/秒以上
1280	60／50		

- 動画撮影時に書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画が正常に記録できないことがあります。また、動画再生時に読み取り速度が遅いカードを使用すると、動画が正常に再生できないことがあります。
- 動画撮影中に静止画を撮影するときは、さらに高速なカードが必要です。
- カードの書き込み／読み取り速度については、カードメーカーのホームページなどで確認してください。
- カードの性能を発揮させるため、動画撮影を行う前に、カードを初期化することをおすすめします。なお、カード初期化に関する注意事項については、1DX 55ページを参照してください。

動画を撮影する

自動露出撮影

撮影モードが〈**P**〉〈**BULB**〉のときは、明るさに応じて自動露出制御が行われます。なお、自動露出制御の内容は、〈**P**〉〈**BULB**〉で同じです。



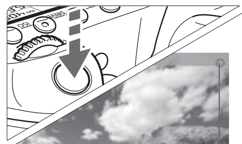
1 撮影モードを〈P/BULB〉にする

- 〈MODE〉ボタンを押し、〈〉または〈〉を回して〈**P**〉または〈**BULB**〉を選びます。

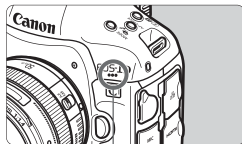


2 ピントを合わせる

- 動画撮影を始める前に、AFまたは手動でピントを合わせます（1DX p.213〜220）。
- シャッターボタンを半押しすると、設定されているAFモードでピント合わせが行われます。



動画撮影中



動画撮影用マイク

3 動画を撮影する

- シャッターボタンを全押しすると（または〈M-Fn〉ボタンを押すと）、動画撮影が始まります。
- ➡ 動画撮影中は、画面右上に「●」が表示されます。
- もう一度シャッターボタンを全押しすると（または〈M-Fn〉ボタンを押すと）、動画撮影が終了します。

Canon Logガンマ設定時は、AFはできません。また、4K, S35, 1920：60/50設定時は、AF Quick モードでのAFはできません。

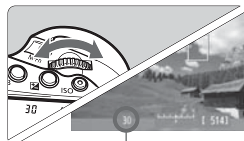
シャッター優先AE撮影

撮影モードを〈Tv〉に設定すると、任意にシャッター速度を設定して、動画撮影を行うことができます。なお、ISO感度、絞り数値は、標準露出になるように、明るさに応じて自動設定されます。



1 撮影モードを〈Tv〉にする

- 〈MODE〉ボタンを押し、〈⚙〉または〈◎〉を回して〈Tv〉を選びます。



シャッター速度

2 シャッター速度を設定する

- 液晶モニターを見ながら〈⚙〉を回します。設定できるシャッター速度は、フレームレート〈**〉により異なります。
  - ・30 25 24 ：1/4000〜1/30秒
  - ・60 50 ：1/4000〜1/60秒



3 ピントを合わせて撮影する

- 『自動露出撮影』の手順2、3と同じです(p.18)。

- 動画撮影中にシャッター速度の変更を行うと、露出変化が記録されるため、おすすめできません。
- 動きのある被写体を動画撮影するときは、1/30 〜 1/125 秒程度のシャッター速度をおすすめします。シャッター速度を速くするほど、被写体の動きが滑らかに再現されなくなります。
- 蛍光灯やLED電球などの光源下で動画撮影を行っているときに、シャッター速度を変更すると、画面のちらつきが記録されることがあります。

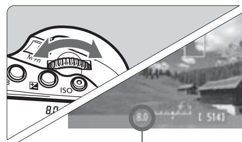
絞り優先AE撮影

撮影モードを〈**Av**〉に設定すると、任意に絞り数値を設定して、動画撮影を行うことができます。なお、ISO感度、シャッター速度は、標準露出になるように、明るさに応じて自動設定されます。



1 撮影モードを〈Av〉にする

● 〈MODE〉ボタンを押し、〈⚙〉または〈◎〉を回して〈**Av**〉を選びます。



絞り数値

2 絞り数値を設定する

● 液晶モニターを見ながら〈⚙〉を回します。



3 ピントを合わせて撮影する

● 『自動露出撮影』の手順2、3と同じです(p.18)。

動画撮影中に絞り数値の変更を行うと、絞りの駆動による露出変化が記録されるため、おすすめできません。

P/Tv/Av/BULBモード時のISO感度について

- ISO100～25600の範囲で自動設定されます。
- **P**/**Av**/**BULB**モードで［**2：ISO感度に関する設定**］の［**ISO感度設定範囲**］の［**上限値**］を［**51200/H**］に設定すると（1DX p.130）、自動設定範囲の上限がH（ISO51200相当）まで拡張されます。なお、［**上限値**］を［**51200**］に設定したときは、上限はISO25600のまま拡張されません。ご注意ください。
- ［**2：高輝度側・階調優先**］を［**する**］に設定したときは（1DX p.154）、ISO感度がISO200～25600になります。
- 動画撮影時は、［**2：ISO感度に関する設定**］の［**ISOオートの範囲**］［**ISOオート低速限界**］は設定できません（1DX p.131、132）。また、**Tv**モードでは、［**ISO感度設定範囲**］は設定できません。

［**ISO 感度設定範囲**］の［**下限値**］が［**L (50)**］に設定されている状態で、静止画撮影から動画撮影に切り換えたときは、動画撮影における自動設定範囲の下限がISO100になります。ISO50相当のISO感度拡張はできません。

自動露出、シャッター優先AE、絞り優先AE撮影の共通事項

- 〈✱〉ボタンを押すと、露出を固定（AEロック）することができます（1DX p.181）。動画撮影中にAEロックを行ったときは、〈⊞〉ボタンを押すと、AEロックを解除することができます（〈⊞〉ボタンを押すまで保持されます）。
- 電源スイッチを〈ON〉にして〈◎〉を回すと、露出補正を行うことができます。
- シャッターボタン半押しで画面下に表示される、ISO感度、シャッター速度は、静止画撮影用の露出値です（p.26）。動画撮影の露出値は表示されません。なお、動画の撮影露出と、静止画の撮影露出は異なることがあります。

LEDライト付きEXスピードライト（別売）について

このカメラは、**P**/**Tv**/**Av**/**BULB**モードで動画を撮影する際、暗い場所でLEDライトが自動的に点灯する機能に対応しています。**詳しくは、EXスピードライトの使用説明書を参照してください。**

マニュアル露出撮影

任意にシャッター速度、絞り数値、ISO感度を設定して、動画撮影を行うことができます。



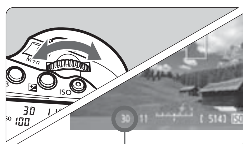
1 撮影モードを〈M〉にする

- 〈MODE〉ボタンを押し、〈◎〉または〈○〉を回して〈**M**〉を選びます。

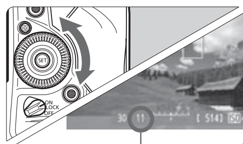


2 ISO感度を設定する

- 〈ISO〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに ISO 感度の設定画面が表示されます。
- 〈◎〉または〈○〉を回して ISO 感度を設定します。
- ISO感度については、次ページを参照してください。



シャッター速度



絞り数値

3 シャッター速度と絞り数値を設定する

- シャッターボタンを半押しして、露出レベル表示を参考に設定します。
- シャッター速度は、〈◎〉を回して設定します。設定できる速度は、フレームレート〈**〉により異なります。
  - ・30 25 24 ：1/4000～1/30秒
  - ・60 50 ：1/4000～1/60秒
- 絞り数値は、〈○〉を回して設定します。
- 設定できないときは、電源スイッチを〈ON〉にしてから〈◎〉または〈○〉を回します。

4 ピントを合わせて撮影する

- 『自動露出撮影』の手順2、3と同じです(p.18)。

マニュアル露出撮影時のISO感度について

- 初期状態ではISO400に設定されています。
- 手動設定のときは、ISO100～25600の範囲で、1/3段ステップで設定することができます。［2：ISO感度に関する設定］の［ISO感度設定範囲］の［上限値］を［51200/H］に設定すると、手動設定範囲の上限がH（ISO51200相当）まで拡張されます。なお、［上限値］を［51200］に設定したときは、上限はISO25600のまま拡張されません。ご注意ください。また、［上限値］を［H1（102400）］［H2（204800）］に設定すると、ISO102400/204800相当まで拡張することができます。
- ［Auto］（A）のときは、ISO100～25600の範囲で自動設定されます。
- ［2：高輝度側・階調優先］を［する］に設定したときは（1DX p.154）、ISO感度がISO200～25600になります（［ISO感度設定範囲］の設定による）。
- 動画撮影時は、［2：ISO感度に関する設定］の［ISOオートの範囲］［ISOオート低速限界］は設定できません（1DX p.131、132）。



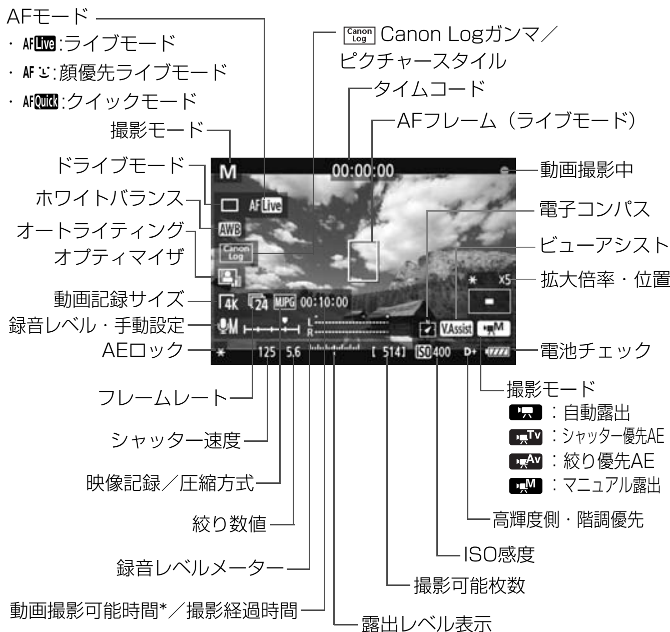
- 動画撮影時のISO32000/40000/51200は、ノイズが多いことがあるため、拡張ISO感度になります（「**H**」表示）。
- ［**ISO 感度設定範囲**］の［**下限値**］が［**L (50)**］に設定されている状態で、静止画撮影から動画撮影に切り換えたときは、動画撮影における手動設定範囲の下限がISO100になります。ISO50相当のISO感度拡張はできません。
- 動画撮影中にシャッター速度や絞り数値の変更、ズーム操作を行うと、露出変化が記録されたり、高ISO感度でノイズが記録されることがあるため、おすすめできません。
- 動きのある被写体を動画撮影するときは、1/30 ～ 1/125 秒程度のシャッター速度をおすすめします。シャッター速度を速くするほど、被写体の動きが滑らかに再現されなくなります。
- 蛍光灯やLED 電球などの光源下で動画撮影を行っているときに、シャッター速度を変更すると、画面のちらつきが記録されることがあります。



- ISOオート設定時に〈✱〉ボタンを押すと、ISO感度を固定（ロック）することができます。
- 〈✱〉ボタンを押して構図を変えると、〈✱〉ボタンを押したときとの露出差を露出レベル表示（1DX p.25、26）で確認することができます。
- 〈INFO.〉ボタンを押すと、ヒストグラムを表示することができます。

情報表示について

● 〈INFO.〉ボタンを押すと、押すたびに情報表示内容が切り換わります。



* 1回の撮影可能時間です。

● 〈INFO.〉ボタンを押すと、水準器を表示することができます（1DX p.62）。
● AFモードが［顔ライブモード］のときと、カメラとテレビをHDMIケーブルで接続（1DX p.273）したときは、水準器は表示されません。
● カードが入っていないときは、「動画撮影可能時間」が赤く表示されます。
● 「動画撮影可能時間」は、撮影が始まると「撮影経過時間」に変わります。

動画撮影時共通事項



- ビデオカメラのように、自動的にピントを合わせ続ける機能は搭載していません。
- 動画撮影中にAFを行うと、一時的にピントが大きくボケたり、露出変化が生じることがあります。
- USMレンズを使用して暗い場所で動画撮影中にAFを行うと、動画に横縞状のノイズが記録されることがあります。なお、電子式フォーカスリングを備えた一部のレンズでは、手動ピント合わせ（MF）でも同様のノイズが記録されることがあります。
- 動画撮影中にレンズのズーム操作を行うことはおすすめできません。ズーム操作により開放絞り数値が変化するレンズ、変化しないレンズに関わらず、露出変化が記録されることがあります。
- 動画撮影時は、レンズを太陽に向けないでください。太陽の熱でカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- ［1：**記録機能とカード・フォルダ選択**］の［**記録機能**］を［**同一書き込み**］に設定しても（1DX p.118）、動画をカード1〈1〉とカード2〈2〉に同時記録することはできません。なお、［**振り分け**］［**同一書き込み**］に設定されているときは、［**再生**］に設定されているカードに動画が記録されます。
- 〈AWB〉で動画撮影中に、ISO感度や絞り数値が変わると、ホワイトバランスが変化することがあります。
- 蛍光灯やLED電球などの光源下で動画を撮影すると、画面にちらつきが発生することがあります。
- 高ISO感度で撮影したときは、動画記録画質の設定により色あいが多少異なることがあります。
- 〈Q〉ボタンを押したときに画面右下に表示される「x5」「x10」の表示は、35mmフルサイズ基準の倍率です。
- **動画撮影全般に関する注意事項は、55、56 ページにまとめて記載しています。**
- **必要に応じて『EOS-1D X使用説明書』221、222ページの『ライブビュー撮影全般に関する注意事項』もお読みください。**

動画撮影時共通事項



- メニューの［4］［5］タブで、動画撮影に関する設定を行うことができます（p.51）。
- 1回撮影する（1クリップ）ごとに、1ファイルが記録されます。ファイルサイズが4GBを超えるときは、約4GBごとに新たなファイルが作成されます。
- 映像の視野率は、約100%（動画記録サイズ1920時）です。
- 〈AF-ON〉ボタンでピントを合わせることもできます。
- 動画撮影中にピント合わせを行うときは、〈AF-ON〉ボタンを押してください。シャッターボタンでピント合わせはできません。
- 情報表示画面（p.26）に表示されるAFフレーム、拡大表示枠の大きさは、動画記録画質（p.34）の設定により変わります。
- 音声は、カメラに内蔵された動画撮影用のマイク（p.18）でモノラル録音されます。
- 外部マイク入力端子（p.13）に、ミニプラグ（φ3.5mm）を備えた市販のステレオマイクを接続すると、ステレオ録音することができます。
- ヘッドフォン端子（p.13）に、ミニプラグ（φ3.5mm）を備えた市販のステレオヘッドフォンを接続すると、動画撮影時の音声を聴くことができます。
- 2011 年下期以降に発売されたフォーカスプリセット機能を備えた（超）望遠レンズ使用時は、動画撮影時にフォーカスプリセットを行うことができます。
- フル充電のバッテリーパック LP-E4Nで動画撮影できる時間は、常温（+23℃）：合計約1時間25分、低温（0℃）：合計約1時間15分です（4K撮影時）。

EFシネマ（CN-E）レンズ使用時の注意事項

- PLマウントのEFシネマレンズは使用できません。
- EFシネマレンズは、絞りの調整を手動で行うため（実絞り）、明るさに応じて自動的に絞り数値が決まる、自動露出撮影（p.18）、シャッター優先AE撮影（p.19）には適していません。
- カメラとの情報通信機能を備えていないEFシネマレンズ使用時は、絞り数値が「00」と表示されます。また、Exif情報にレンズ名などは記録されません。
- カメラとの情報通信機能を備えたEFシネマレンズ使用時は、絞り数値がFNo.で表示されます（TNo.では表示されません）。
- レンズによる映像の色あいは、EFレンズとEFシネマレンズで異なります。EFシネマレンズはEFレンズに比べ、わずかに黄色傾向の色あいになります。
- EFシネマレンズを使用して静止画撮影を行ったときは、レンズ光学補正（周辺光量補正、色収差補正）は行われません。
- EFシネマレンズ使用時の注意事項を、キヤノンのホームページなどで追加情報としてお知らせすることがあります。

ファイナルイメージシミュレーションについて

ファイナルイメージシミュレーションは、ピクチャースタイルやホワイトバランスなどの効果を映像で確認できる機能です。

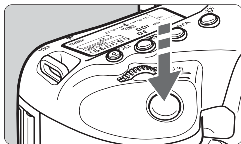
動画撮影時に映像を表示すると、下記に示した機能の設定効果が、自動的に反映されて表示されます。

動画のファイナルイメージシミュレーション機能

- ピクチャースタイル
  * シャープネス、コントラスト、色の濃さ、色あいなどの全設定が反映されます。
- Canon Logガンマ（ビューアシスト非適用時）
  * シャープネス、彩度、色相が反映されます。
- ホワイトバランス
- ホワイトバランス補正
- 露出
- 被写界深度
- オートライティングオプティマイザ
- 周辺光量補正
- 色収差補正
- 高輝度側・階調優先

Canon Logガンマ（p.43）設定時も、ピクチャースタイル以外の機能の設定効果が反映されて表示されます。

静止画を撮影する



［5：動画撮影ボタン］を［M-Fn］に設定して（p.52）、シャッターボタンを全押しすると、動画撮影中でも静止画を撮影することができます。

ただし、4K，S35，1920：60/50、およびCanon Logガンマ設定時は、静止画撮影はできません。

動画時の静止画撮影について

- 動画撮影中に静止画撮影を行うと、動画の中に静止状態の映像が約 1 秒間記録されます。
- カードには、動画ファイルと静止画ファイルが別々に記録されます。
- 静止画がカードに記録され、映像が表示されると自動的に動画撮影が再開します。
- ［**記録機能**］（1DX p.118）が［**標準**］［**カード自動切り換え**］のときは、動画と静止画は同じカードに記録されます。［**振り分け**］［**同一書き込み**］のときは、動画は［**再生**］に設定されているカード、静止画はそれぞれのカードに対する記録画質の設定どおりに記録されます。
- 静止画撮影特有の機能は下記のようになります。その他の機能は動画撮影と同じです。

機能	設定内容
記録画質	［2：画像サイズ］［2：JPEG画質］設定のとおり
ISO感度*	・〈P/Tv/Av/BULB〉：ISO100～25600 ・〈M〉：24ページ『マニュアル露出撮影時のISO感度について』参照
露出値	・〈P/BULB〉：自動設定されたシャッター速度、絞り数値 ・〈Tv〉：手動設定したシャッター速度、自動設定された絞り数値 ・〈Av〉：手動設定した絞り数値、自動設定されたシャッター速度 ・〈M〉：手動設定したシャッター速度、絞り数値

* 高輝度側・階調優先設定時は、ISO200～となる



- ［**5：動画撮影ボタン**］が［/M-Fn］のときは、静止画撮影はできません。
- EFシネマズームレンズは、35mmフルサイズの撮像素子のイメージサイズに対応していないため、静止画撮影はできません（画像の周辺部分が暗く写ります）。
- AEB撮影はできません。
- 外部ストロボを使用しても発光しません。
- 動画撮影中に静止画を連続撮影することができますが、連続撮影中は映像が表示されません。なお、静止画の記録画質や、連続撮影する枚数、カードの性能などにより、動画撮影が自動的に停止することがあります。

- 動画撮影中に静止画を連続撮影するときは、17ページに記載した「要求カード性能」以上のカードの使用をおすすめします。また、静止画の画像サイズを小さくしたり、連続撮影する枚数を少なくすることをおすすめします。
- すべてのドライブモードで撮影できます。
- セルフタイマーは動画撮影開始前に有効です。動画撮影中は1枚撮影に切り換わります。

撮影機能の設定

MODE／AF／DRIVE／⊞／ISO／☒／WB設定

液晶モニターに映像が表示された状態で〈MODE〉／〈AF・DRIVE〉／〈⊞〉／〈ISO〉／〈☒〉／〈WB〉ボタンを押すと、液晶モニターに設定画面が表示され、〈◎〉または〈◎〉で撮影機能の設定を行うことができます。

AFQuick設定時に〈⊞〉ボタンを押すと、測距エリア選択モードと、AFフレームを選択することができます。操作方法は、ファインダー撮影時と同じです。マニュアル露出撮影時（p.23）に〈ISO〉ボタンを押すと、ISO感度を設定することができます。

なお、〈◉〉測光モード、〈☒〉調光補正は設定できません。

Q クイック設定

液晶モニターに映像が表示された状態で〈Q〉ボタンを押すと、AFモード、ドライブモード、ホワイトバランス、ピクチャースタイル、オートライティングオプティマイザ、動画記録サイズ、録音レベル（［**録音：マニュアル**］設定時）の設定を行うことができます。

1 〈Q〉ボタンを押す

➡ 設定できる項目が表示されます。

2 機能を選んで設定する

- 〈✣〉で機能を選びます。
- ➡ 選んだ機能の設定内容が、画面下側に表示されます。
- 〈◎〉または〈◎〉を回して設定します。

［**Canon Log**］が［**入**］に設定されているときは、ピクチャースタイル、オートライティングオプティマイザは設定できません。

動画撮影中は、シャッター速度、絞り数値、ISO感度、露出補正、録音レベルの設定ができます（撮影モード、［**録音**］の設定により、設定できる内容が異なります）。

MENU 動画記録画質の設定



［4：動画記録サイズ］で、動画の画像サイズ、フレームレート（1秒間に何コマ記録するか）、映像記録／圧縮方式を設定することができます。なお、フレームレートは、［3：ビデオ出力方式］の設定により、自動的に切り換わります。

● **画像サイズ**

4k ［4096×2160］：撮像素子の中心部分を4K画質で記録します。有効撮影画角は、レンズ表記焦点距離の約1.3倍になります。

S35 ［1920×1080］：撮像素子の中心部分をスーパー 35mmフィルム相当のサイズで、フルハイビジョン（フルHD）画質で記録します（スーパー 35mmクロップ撮影）。画面の横縦比は16：9です。有効撮影画角は、レンズ表記焦点距離の約1.6倍になります。

1920 ［1920×1080］：フルハイビジョン（フルHD）画質で記録します。画面の横縦比は16：9です。

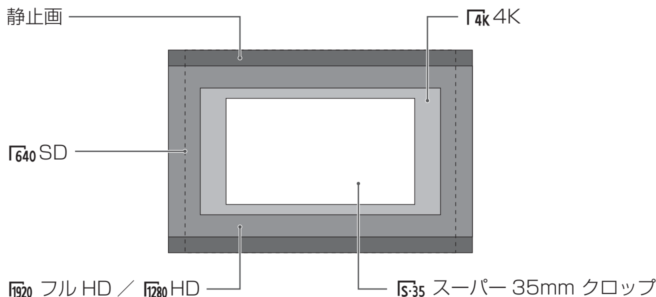
1280 ［1280×720］：ハイビジョン（HD）画質で記録します。画面の横縦比は16：9です。

640 ［640×480］：標準（SD）画質で記録します。画面の横縦比は4：3です。

- EFシネマズームレンズ使用時は、S35に設定してください。S35以外の設定で撮影すると、映像の周辺部分が暗く写ります。
- 4k設定時は、色収差補正（1DX p.156）は設定できません（機能しません）。
- 4k S35 設定時に、［ライブモード］［顔ライブモード］でコントラストの低い被写体を撮影すると、AFでピントが合わないことがあります。手動ピント合わせ(MF)をおすすめします。

撮影範囲について

4K S35 1920 1280 撮影時は、撮像素子の以下の範囲を使って動画撮影が行われます。



S35 1920 は1920×1080、1280 は1280×720、640 は640×480のサイズで動画記録されます。

● **フレームレート**（fps：frame per second）

60/30：テレビの映像方式が「NTSC」の地域（北米、日本、韓国、メキシコなど）で設定します。

50/25：テレビの映像方式が「PAL」の地域（ヨーロッパ、ロシア、中国、オーストラリアなど）で設定します。

24：主に映画関連で使用します。

● **映像記録方式／圧縮方式**

MJPG MJPG：4K 撮影時はMotion JPEG形式で圧縮して記録されます。フレーム間の圧縮を行わず、1フレーム単位で圧縮して記録するため、圧縮率が低くなります。また、画像サイズも大きいため、ファイルサイズが大きくなります。

IPB IPB：複数のフレーム単位で効率的に圧縮して記録します。ALL-Iよりもファイルサイズが小さくなるため、撮影できる時間が長くなります。

ALL-I ALL-I（I-only）：1フレーム単位で圧縮して記録します。IPBよりもファイルサイズが大きくなりますが、撮影後の編集作業に適しています。

● 4K，S35，1920：60/50 設定時は、静止画撮影（p.31）はできません。
● S35，1920：60/50，1920：30/25は、ともにフルHDで記録されますが、解像感は多少異なります。

● フレームレート60/50、30/25は、［3：**ビデオ出力方式**］の設定に応じて自動的に切り換わります。
● カラーサンプリングは、4K：YCbCr 4:2:2 (8bit)、S35 1920 1280 640：YCbCr 4:2:0 (8bit)、カラーマトリックスは、4K 640：Rec. ITU-R BT.601、S35 1920 1280：Rec. ITU-R BT.709で記録されます。

動画の1分間あたりのファイルサイズと総記録時間の目安

動画記録サイズ			ファイルサイズ（約）	総記録時間（約）		
				4GBカード	32GBカード	128GBカード
4K	24	MJPG	3.76GB/分	55秒	8分	32分
S35	30 25 24	IPB	385MB/分	9分30秒	1時間19分	5時間16分
	30 25 24	ALL-I	685MB/分	5分	44分	2時間57分
1920	60 50	ALL-I	1.36GB/分	2分30秒	22分	1時間29分
	30 25 24	IPB	235MB/分	16分	2時間9分	8時間37分
	30 25 24	ALL-I	685MB/分	5分	44分	2時間57分
1280	60 50	IPB	205MB/分	18分	2時間28分	9時間52分
	60 50	ALL-I	610MB/分	6分	49分	3時間19分
640	30 25	IPB	78MB/分	48分	6時間28分	25時間55分

● ファイルサイズが4GBを超える動画撮影について

1回の撮影（1クリップ）でファイルサイズが4GBを超える場合でも、一時中断することなく、動画撮影を続けることができます。

動画撮影を開始してから、ファイルサイズが4GBに達する約30秒前になると、動画撮影画面に表示されている撮影経過時間、またはタイムコードが点滅します。そのまま撮影を継続し、4GBを超えると、新しい動画ファイルが自動的に作成され、点灯表示に戻ります。

なお、カメラで動画を再生するときは、動画ファイルごとの再生になります。動画ファイルを自動で連続再生することはできません。再生が終わったら、続きのファイルを選んで再生してください。

● 撮影時間の制限について

1回に撮影できる時間は、最長12時間です。カードの空き容量がなくなるか、制限時間に達した時点で動画撮影が自動的に終了します。カードの空き容量があるときは、シャッターボタンを全押しすると（または〈M-Fn〉ボタンを押すと）、動画撮影を再開することができます（新規ファイルとして記録されます）。

- カメラ内部の温度上昇により、前ページの表に示した時間よりも早く動画撮影が終了することがあります（p.55）。
- ［**記録機能**］を［**カード自動切り換え**］に設定していても、動画撮影中はカードの自動切り換えは行われません。
- 1回の撮影（1クリップ）でファイルサイズが4GBを超え、複数の動画ファイルが作成されたときに、その一部の動画ファイルを消去すると、EOS MOVIE Utility（p.95）で1つの動画として連続再生したり、結合保存することができなくなります。

 EOS MOVIE Utilityを使用すると、4GBごとに分割された動画ファイルを自動的に結合して、1つの動画ファイルとして保存することができます。



Full HD 1080について

Full HD 1080は、垂直画素（走査線）数：1080画素（本）のHD（High Definition：ハイディフィニション）映像に対応していることを示しています。

FULL HD 1080

MENU 録音の設定



内蔵のモノラルマイク、または市販のステレオマイクを使用して、動画撮影を行うことができます。また、録音レベルを任意に調整することもできます。

［4：**録音**］で録音に関する設定を行います。

録音／録音レベル

［**オート**］　：録音レベルが自動調整されます。音の大きさに応じて、オートレベルコントロール機能が自動的に働きます。

［**マニュアル**］：録音レベルを64段階で任意に調整することができます。［**録音レベル**］を選び、レベルメーターを見ながら〈◎〉を回すと、録音レベルを調整することができます。音量が大きいときに、レベルメーターの「12」（－12dB）の右側が、時々点灯するように、ピークホールド機能（3秒間）を参考にして調整します。「0」を超えると音が割れます。

［**しない**］　：録音は行われません。

ウィンドカット

［**入**］に設定すると、屋外で撮影する際、風の影響により発生する「ボコボコ」という音を低減することができます。内蔵マイク使用時のみ機能します。

ただし、［**入**］に設定すると、低い音の一部も低減されるため、風の影響を受けない場所では［**切**］に設定することをおすすめします。［**入**］のときよりも自然な音で録音されます。

● マイクについて

通常は内蔵マイクでモノラル録音されます。外部マイク入力端子（p.13）に、ミニプラグ（φ3.5mm）を備えた市販のステレオマイクを接続すると、外部マイクが優先され、ステレオ録音することができます。

- L/R（左/右）の音量バランスを調整することはできません。
- カメラに内蔵されたマイクにより、撮影中の操作音やカメラの作動音なども一緒に録音されます。なお、市販の外部マイクを使用すると、これらの音を録音しないように（低減）することができます。
- 外部マイク入力端子に、外部マイク以外は接続しないでください。

- L/Rともに、サンプリング周波数48kHz／16bitで記録されます。
- ［**5：動画サイレント設定**］を［**有効**］にすると（p.42）、動画撮影中に〈〉（十字タッチパッド）を使って操作音を抑えながら録音レベルを調整することができます。

● ヘッドフォンについて

ヘッドフォン端子（p.13）に、ミニプラグ（φ3.5mm）を備えた市販のステレオヘッドフォンを接続すると、動画撮影時の音声を聴くことができます。外部ステレオマイク使用時は、ステレオで聴くことができます。

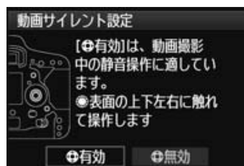
ヘッドフォンの音量調整を行うときは、〈Q〉ボタンを押したあと、〈⊶〉ボタンを押しながら〈✥〉を上下に操作します。なお、音量調整の表示は画面に表示されません。ヘッドフォンの音声を聴きながら調整してください。

なお、動画再生時もヘッドフォンを使用することができます。

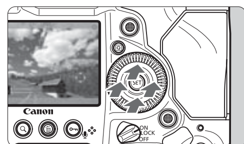

ヘッドフォンに出力される音声は、ノイズ低減処理は行われていません。そのため、実際に動画に記録される音声とは異なります。

MENU 動画サイレント設定

動画撮影中に操作音を抑えながら、ISO感度や録音レベルなどの設定を変更したいときに有効です。



［◘5：**動画サイレント設定**］を［◎**有効**］に設定すると、サブ電子ダイヤルの内側にある、〈◎〉（十字タッチパッド）が機能するようになります。



〈◎〉の上下左右に触れるだけで静かに操作することができます。

動画撮影中に〈Q〉ボタンを押して、クイック設定状態にすると、〈◎〉で以下の機能の設定を変更することができます。



変更可能項目	撮影モード			
	P/B	Tv	Av	M
①シャッター速度	－	○	－	○
②絞り数値	－	－	○	○
③ISO感度	－	－	－	○
④露出補正	○	○	○	－
⑤録音レベル	○	○	○	○

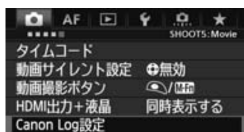
- ［◘5：**動画サイレント設定**］を［◎**有効**］に設定したときは、動画撮影中に〈◎〉（サブ電子ダイヤル）で録音レベルを調整することはできません。
- 〈◎〉で静かに絞り数値を変更しても、絞りの駆動音は動画に記録されます。
- 〈◎〉に水や汚れなどが付くと、動作しないことがあります。そのときは、布などできれいにふき取ってください。ふき取っても動作しないときは、しばらく経ってから操作してください。

動画撮影開始前は、クイック設定および［**録音レベル**］の設定で、〈◎〉を使って録音レベルの調整を行うことができます。

Canon Logガンマの設定

Canon Logガンマは、撮像素子の特性を最大限に引き出し、広いダイナミックレンジを確保することを目的とした、ポストプロダクション処理を前提にしたガンマ特性です。黒つぶれや白飛びが少なく、シャドウからハイライトまでの情報を映像に取り入れることができます。

なお、Canon Log ガンマで撮影した映像は、ルックアップテーブル（LUT）を適用してポストプロダクション処理を行うことができます。LUTデータは、キヤノンのホームページからダウンロードしてください。



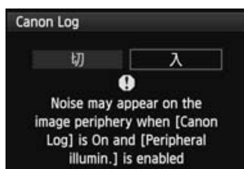
1 ［Canon Log設定］を選ぶ

- ［5］タブの［Canon Log設定］を選び、〈SET〉を押します。



2 ［Canon Log］を選ぶ

- 〈SET〉を押します。



3 ［入］を選ぶ

- 〈〉を回して［入］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ Canon Logガンマに設定されます。
- 注意メッセージは、言語に関わらず英語で表示されます。メッセージの内容は以下のとおりです。
  「Canon Logガンマ設定時に、［周辺光量補正］が［する］に設定されているときは、動画の周辺部分にノイズが発生することがあります。」



動画撮影時に［Canon Log］を［入］に設定したときは、以下のように制限されます。

- 撮影モードが〈M〉（マニュアル露出撮影）に自動設定されます。
  （P/Bulb、Tv、Avモードでの撮影はできません）
- AFはできません。手動ピント合わせを行ってください。
- ISOオートでの撮影はできません。ISO感度を手動設定してください。
  （ISOオート設定時は、ISO400に設定されます）



4 Canon Logガンマを調整する

- 必要に応じて調整します。
- 〈◎〉を回して項目（［**シャープネス**］［**彩度**］［**色相**］）を選び、〈SET〉を押します。
- 〈◎〉を回して効果の度合いを設定し、〈SET〉を押します。

シャープネス		0：輪郭強調・控えめ	7：輪郭強調・強め
彩度		−4：低い	+4：高い
色相*	赤色	−4：マゼンタ寄り	+4：黄色寄り
	緑色	−4：黄色寄り	+4：シアン寄り
	青色	−4：シアン寄り	+4：マゼンタ寄り

* 赤色、緑色、青色を個別に調整することはできません。

Canon Logガンマ設定時の画質について

- Canon Logガンマ設定時は、被写体条件や撮影条件により、映像に縦縞状のノイズが発生することがあります。そのため、事前にテスト撮影を行い、映像を確認してから撮影することをおすすめします。なお、撮影した映像をグレーディング処理する際、特にコントラストを強くすると、ノイズが顕著になることがありますので、ご注意ください。
- 縦縞状のノイズは、「やや暗く平坦な被写体」を撮影したときや、［**周辺光量補正**］を［**する**］に設定したときに発生しやすくなります。なお、このノイズは、ISO400程度の比較的低い感度でも発生することがあります。また、1920：60/50 設定時は、他の動画記録画質（p.34）設定時に比べて、ノイズが目立つことがあります。
- ノイズが目立つときは、［**周辺光量補正**］を［**しない**］に設定して、やや明るめに撮影を行い、グレーディング処理の際に明るさ調整を行うことをおすすめします。また、（ダイナミックレンジが狭くなりますが）ISO320未満で撮影すると、ノイズを軽減できることがあります。

ビューアシストを設定する

Canon Logガンマは、広いダイナミックレンジを確保することを目的とした映像特性のため、液晶モニターに表示される映像は、ピクチャースタイル設定時に比べ低コントラストでやや暗い映像になります。

ビューアシスト機能を使用すると、液晶モニターに表示される映像が見やすい特性で表示され、画角やディテールなどを確認しやすくなります。

なお、ビューアシストを設定しても、カードに記録される映像には影響しません（Canon Logガンマの特性でカードに記録されます）。



［ビューアシスト］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**ビューアシスト**］を選び、〈SET〉を押します。
- 〈◎〉を回して［**入**］を選び、〈SET〉を押します。

➡ 動画撮影時にビューアシスト表示が行われます。

● **HDMI出力時のビューアシスト表示について**

4K 動画撮影時に［**ビューアシスト**］を［**入**］に設定したときは、HDMI出力（p.53、54）映像もビューアシスト表示が行われます。なお、4K以外の動画記録画質のときは、ビューアシスト表示は行われません。

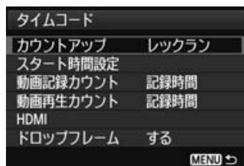


- ［**周辺光量補正**］が［**する**］に設定されているときは、動画の周辺部分にノイズが発生することがあるため、情報表示画面（p.26）のCanon Logガンマのマークが点滅します。
- Canon Logガンマ設定時は、動画撮影時にピクチャースタイル、オートライティングオプティマイザ、高輝度側・階調優先は設定できません（機能しません）。また、動画撮影時に静止画の撮影はできません。
- Canon Logガンマ設定時は、AFはできませんが、AFフレーム（p.26）が表示されます（レンズのフォーカスモードスイッチ〈**AF**〉設定時）。
- ［**Canon Log**］を［**切**］にしても、撮影モード、AFモード、ISO感度は元の設定には戻りません。必要に応じて設定し直してください。



- Canon Logガンマ設定時のダイナミックレンジは、ISO320以上で約800%です。
- 4K 以外の動画記録画質のときにHDMI出力を行ったときは、［**ビューアシスト**］の設定に関わらず、ビューアシストが行われない映像が出力されます。そのため、Canon Logガンマ特性で情報なしのHDMI映像を外部記録機器に記録することができます（p.53、54）。
- 4K 設定時にHDMI出力を行ったときは、フルHD（1080 60i/50i）で、撮影範囲を示す帯が付いた状態で出力されます（4K出力はできません）。4K 設定時のHDMI映像は、プロキシ編集や映像確認が主用途となるため、［**ビューアシスト**］が［**入**］に設定されているときは、ビューアシストが行われた映像が出力されます。
- 液晶モニターがビューアシスト表示のときは、情報表示画面に V.Assist が表示されます（p.26）。［**ビューアシスト**］が［**入**］に設定されていても、ビューアシスト表示が行われない条件のときは、V.Assist が灰色で表示されます。
- 4K 動画撮影時に［**ビューアシスト**］を［**入**］に設定したときは、A/V OUT（ビデオ出力）映像もビューアシスト表示が行われます。
- 動画再生時にビューアシスト表示は行われません。
- Canon Logガンマは動画に対して適用されます。ファインダー撮影を行った静止画は、Canon Logガンマの設定に関わらず、ピクチャースタイルで撮影されます。

MENU タイムコードの設定



タイムコードとは、動画撮影時に映像・音声に同期して自動的に記録される時間軸のことです。「時／分／秒／フレーム」の単位で常時記録されます。主に撮影した動画を編集するときに利用します。

［**5：タイムコード**］でタイムコードの設定を行います。

カウントアップ

［**レックラン**］：動画撮影しているときだけ、タイムコードのカウントが進みます。同一のカードに記録している間、撮影した動画ファイルの順でタイムコードが連続します。

［**フリーラン**］：動画撮影をしていないときも、タイムコードのカウントが進みます。

スタート時間設定

タイムコードの起点（スタート時間）を設定することができます。

［**手動入力設定**］：「時：分：秒：フレーム」を任意に設定することができます。

［**リセット**］：［**手動入力設定**］［**カメラ時間に設定**］で設定した時間がリセットされ、「00：00：00：00」になります。

［**カメラ時間に設定**］：カメラに設定されている「時：分：秒」に設定されます。「フレーム」は「00」に設定されます。



- ［**フリーラン**］設定時に、時刻/エリア/サマータイムの設定を変更すると（1DX p.40）、タイムコードに影響が生じます。
- カードを交換したときやカードを切り換えたときに、カードに記録されている最後のタイムコードを読み出して、その続きからカウントを行う「リジェネ」機能は搭載していません。

動画記録カウント

動画撮影画面に表示する内容を選ぶことができます。

[**記録時間**]　：動画撮影時に撮影開始からの経過時間が表示されます。

[**タイムコード**]：動画撮影時にタイムコードが表示されます。

動画撮影中に静止画を撮影すると、実時間とタイムコードに差が生じます。

タイムコードは、[**動画記録カウント**] の設定に関わらず、動画ファイルに常時記録されます。

動画再生カウント

動画再生画面に表示する内容を選ぶことができます。

[**記録時間**]　：動画再生時に撮影時間または再生時間が表示されます。

[**タイムコード**]：動画再生時にタイムコードが表示されます。

[タイムコード] 設定時



動画撮影時



動画再生時

- [5 (動画) : **タイムコード**] の [**動画再生カウント**] と [3 : **動画再生カウント**] は、設定が連動して切り換わります。
- 動画撮影時、および動画再生中は、「フレーム」は表示されません。

HDMI

● タイムコード

HDMI 出力した映像にタイムコードを付加することができます。HDMI出力した映像を外部記録機器に記録して（p.54）、プロキシ編集用として使うときに有効です。

［**入**］：HDMI出力映像にタイムコードが付加されます。

［**切**］：HDMI出力映像にタイムコードは付加されません。

● 記録コマンド

HDMI出力した映像を外部記録機器に記録する際に、カメラの動画撮影開始／停止と外部記録機器の記録を同期させることができます。

［**入**］：動画撮影開始／停止と外部記録機器の記録が同期します。

［**切**］：外部記録機器側で記録開始／停止を行います。



動画記録画質のフレームレート設定と（p.54）、HDMI出力フレームレートの手動設定で、NTSC（60/30fps）とPAL（50/25fps）のフレームレートが混在し、組み合わせが適切でないときは、HDMI出力映像にタイムコードは付加されません。



［**記録コマンド**］に対応する外部記録機器の情報については、キヤノンのホームページなどを参照してください。

ドロップフレーム

フレームレートが、30（29.97fps）、60（59.94fps）のときに、タイムコードでフレームをカウントすると、実際の時間とタイムコードで差が生じます。この差を自動的に補正することができます。この機能をドロップフレームといいます。

- ［**する**］：タイムコードを間引く補正が自動的に行われます（DF：ドロップフレーム）。
- ［**しない**］：補正は行われません（NDF：ノンドロップフレーム）。

フレームレートが24（23.976fps）、25（25.00fps）、50（50.00fps）のときは、ドロップフレームは行われません（24設定時、および［**3：ビデオ出力方式**］が［**PAL**］に設定されているときは、ドロップフレームの項目は表示されません）。

MENU メニュー機能の設定

[4] メニュー



［4：LV/ 設定］で［動画］を選択すると、メニューの［4］［5］タブが、動画撮影特有の項目として表示されます。各項目の内容は下記のとおりです。

● **AFモード**

1DX213～219ページで説明しているAFモードと同じです。［**ライブモード**］［**ライブモード**］［**クイックモード**］が選択できます。なお、動いているものにピントを合わせ続けることはできません。

なお、AF モードを［**クイックモード**］に設定していても、動画撮影中は［**ライブモード**］に切り換わります。

● **グリッド**

［**9分割**］または［**24分割**］で格子線を表示して、水平、垂直の傾きを確認しながら撮影することができます。また、［**9分割+対角**］では、格子線と対角線が表示され、水平、垂直の傾きの確認だけでなく、交点を被写体に合わせることで、バランスの良い構図で撮影することができます。

● **動画記録サイズ**

動画記録画質（画像サイズ、フレームレート、映像記録／圧縮方式）を設定することができます。詳しくは、34～38ページを参照してください。

● **録音**

録音に関する設定を行うことができます。詳しくは、39、40ページを参照してください。ヘッドフォンについては、41ページを参照してください。


Canon Logガンマ設定時は、AFはできません。また、4K，S35，1920：60/50設定時は、AFQuick モードでのAFはできません。

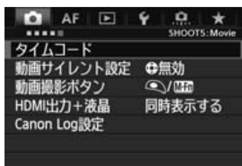
● **LV静音撮影**

静止画撮影用の機能です。詳しくは、1DX212ページを参照してください。

● **測光タイマー**

露出値の表示時間（AEロック時の保持時間）を変えることができます。

［5］メニュー



● **タイムコード**

タイムコードを設定することができます。詳しくは、47〜50ページを参照してください。

● **動画サイレント設定**

［有効］にすると、動画撮影中のクイック設定時に、十字タッチパッド〈〉を使って、操作音を抑えながら設定を変更することができます。詳しくは、42ページを参照してください。

● **動画撮影ボタン**

初期状態では［/M-Fn］に設定されています。そのため〈M-Fn〉ボタンだけでなくシャッターボタンの全押し、またはリモートスイッチRS-80N3（別売）や、タイマーリモートコントローラー TC-80N3（別売）で、動画撮影を開始／終了することができます（1DXp.183）。

ただし、［/M-Fn］設定時は、静止画撮影（p.31）はできません。［M-Fn］に設定すると、動画撮影時に静止画が撮影できるようになります。

● **HDMI出力＋液晶**

液晶モニターに映像を表示しながら、HDMI出力による映像表示を行うことができます。初期状態では［**同時表示する**］に設定されています。なお、HDMI出力による映像には撮影情報や撮影範囲を示す帯などは表示されません（情報なし出力：スルー表示）。そのため、HDMI出力映像を市販の外部記録機器に記録するときなどに有効です。

［**同時表示しない**］に設定したときは、液晶モニターに映像が表示されますが、HDMI出力を行ったときは液晶モニターが消灯します。この設定のときは、HDMI出力による映像にも撮影情報や撮影範囲を示す帯などが表示されますが、〈INFO.〉ボタンを押すと、情報なし出力を行うことができます。



- HDMI映像の情報なし出力を行ったときは、カード残量やバッテリー残量、内部温度上昇（p.55）などの警告はHDMI出力先の画面に表示されないため、特に［**同時表示しない**］に設定されているときはご注意ください。［**同時表示する**］のときは、液晶モニターで警告を確認することができます。
- HDMI出力時に音声は出力されません。
- ［**同時表示する**］の設定で画像再生やメニュー表示を行っても、HDMI 出力による映像表示は行われません。
- ［**4：動画記録サイズ**］が 4K に設定されていても、HDMI映像はフルHD（1080 60i/50i）で、撮影範囲を示す帯が付いた状態で出力されます。
- 動画撮影を終了したときは、カードへの記録処理中、HDMI出力映像が一時的に停止します（フレームストップ）。記録処理が終了すると正常に表示されます。
- HDMIとA/V OUT（ビデオ）の同時出力はできません。端子にケーブルを後から接続した方に映像が出力されます。なお、ビデオ出力時は、液晶モニターには何も表示されません。
- カメラで撮影した動画と HDMI 出力を外部記録機器で記録した映像の明るさは、閲覧する環境により異なって見えることがあります。

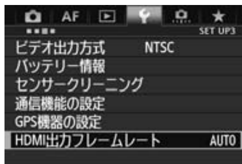


- 〈INFO.〉ボタンを押すと、画面に表示される情報を切り換えることができます。
- HDMI出力映像にタイムコードを付加することができます（p.49）。

● **Canon Log設定**

広いダイナミックレンジを確保することを目的とした、ポストプロダクション処理を前提にしたガンマ特性です。詳しくは、43～46ページを参照してください。

[3] メニュー



● **HDMI出力フレームレート**

HDMI出力時のフレームレートを［**自動**］［**24p**］［**60i/50i**］から選ぶことができます。HDMI出力による映像を市販の外部記録機器に記録する際に、外部記録機器が対応するフレームレートに合わせて設定します。

- 手動設定したフレームレートで外部記録機器に接続できないときは、フレームレートが自動設定されます。
- ［**HDMI出力フレームレート：60i**］と、［**動画記録サイズ**］のフレームレート24の組み合わせのときは、「2-3プルダウン」処理が行われます。



動画撮影全般に関する注意事項

カメラ内部の温度上昇にともなう、白い〈 〉と赤い〈 〉表示について

- 動画撮影を長時間行ったり、高温下で動画撮影を行うと、カメラ内部の温度が上昇し、白い〈 〉が表示されます。このマークが表示された状態で動画撮影をしても、動画の画質はほとんど低下しません。ただし、静止画を撮影すると、静止画の画質が低下することがありますので、カメラ内部の温度が下がるまで、静止画撮影を一時休止することをおすすめします。
- 白い〈 〉が表示された状態からカメラ内部の温度がさらに上昇すると、赤い〈 〉が点滅します。このマークは、もうすぐ動画撮影が自動的に終了することを示しています。そのときは、カメラ内部の温度が下がるまで、撮影ができなくなりますので、一旦電源を切り、しばらく休止してください。
- 高温下で動画撮影を長時間行うと、〈 〉と〈 〉が表示されるタイミングが早くなります。撮影しないときは、こまめに電源を切ってください。

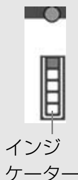
記録と画質について

- 手ブレ補正機能を搭載したレンズ使用時は、シャッターボタンを半押ししなくても、常時手ブレ補正機能が作動します。そのため、電池が消耗し、撮影条件により動画撮影時間が短くなったり、撮影可能枚数が少なくなることがあります。三脚使用時など、補正の必要がないときは、手ブレ補正スイッチを〈OFF〉にすることをおすすめします。
- 極端に明るい光源が画面内にあると、明るい部分が黒っぽくつぶれたように表示されることがあります。動画撮影時は、表示された映像とほぼ同じ状態で記録されます。
- 暗い場所では映像にノイズや色ムラが発生することがあります。動画撮影時は、表示された映像とほぼ同じ状態で記録されます。

動画撮影全般に関する注意事項

記録と画質について

- 書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画撮影中に画面の右側に5段階のインジケーターが表示されることがあります。インジケーターは、カードにまだ書き込まれていないデータ量（内蔵メモリーの空き容量）を表し、遅いカードほど、段階が早く上がっていきます。インジケーターがフルになると、動画撮影が自動的に停止します。
  書き込み速度が速いカードは、インジケーターが表示されないか、表示されても段階はほとんど上がりません。そのため、事前にテスト撮影を行うことで、動画撮影に適したカードかどうかを判断することができます。



インジケーター

動画撮影時の静止画撮影について

- 静止画撮影の画質については、1DX221 ページの『画質について』を参照してください。

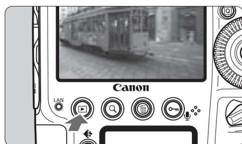
再生とテレビ接続について

- 自動露出撮影、シャッター優先AE撮影、絞り優先AE撮影で動画撮影中に明るさが変化すると、その場面の映像が一瞬止まって見えることがあります。このようなときは、マニュアル露出で撮影してください。
- 4K 画質でISO感度をH2（ISO204800）に設定して撮影を行ったときは、カメラで動画を再生したときに、映像が一瞬止まって見えることがあります。
- カメラとテレビを接続（1DXp.273、276）して動画撮影を行うと、撮影中テレビから音は出ません。ただし、音声は正常に記録されます。

レンズについて

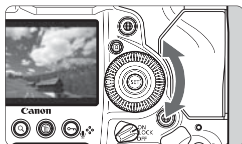
- 2011年下期 以降に発売されたフォーカスプリセット機能を備えた（超）望遠レンズ使用時のみ、動画撮影時にフォーカスプリセットを行うことができます。

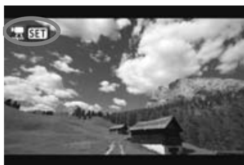
🎥 動画を再生する



1 画像を再生する

- 〈▶〉ボタンを押します。
- ➡ 最後に撮影した画像、または最後に再生した画像が表示されます。





2 動画を選ぶ

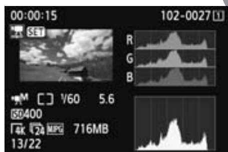
- 〈◎〉を左に回すと、最後に撮影した画像から新しい順に画像が表示されます。右に回すと、古い画像から順に新しい画像が表示されます。
- 1枚表示のときに、画面左上に〈🎥 SET〉が表示されている画像が動画です。
- 〈INFO.〉ボタンを押すたびに、表示形式が切り換わります。



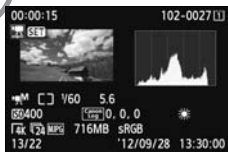
情報表示なし



簡易情報表示



ヒストグラム表示



撮影情報表示



インデックス表示について

- 〈Q〉ボタンを押して〈〉を左に回していくと、インデックス表示になります。
- インデックス表示のときは、画面左側に縦帯の付いた画像が動画です。**インデックス表示からは再生できませんので、〈SET〉を押して1枚表示にします。**

3 1枚表示の状態で〈SET〉を押す

➡ 画面の下に動画再生パネルが表示されます。

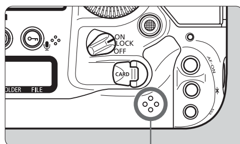


4 動画を再生する

- 〈〉を回して[▶](再生)を選び、〈SET〉を押します。

➡ 動画再生が始まります。

- 再生中に〈SET〉を押すと、再生が一時停止します。
- 〈〉を回すと、再生中でも音量を調整することができます。
- 再生操作に関する詳しい内容は、次ページを参照してください。



スピーカー

- 〈MENU〉ボタンを押すと再生が終了し、撮影準備状態に戻ります。

4GBごとに分割された動画ファイルに対して、前後部分のカット（1DX p.268）を行い、上書き保存を行うと、ファイルを結合するための情報が失われることがあります。そのときは、EOS MOVIE Utility（p.95）などで、1つの動画ファイルとして結合保存する際、意図した通りに結合できないことがあります。

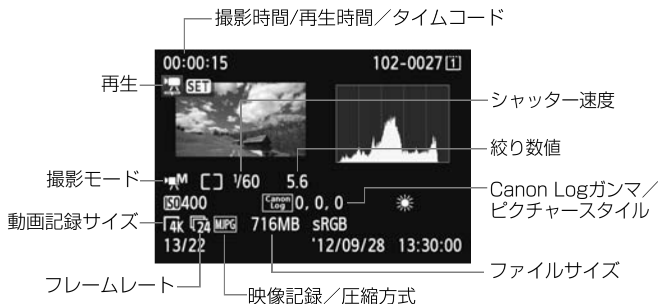
項目	再生内容
終了	1枚表示の状態に戻ります。
▶ 再生	〈SET〉を押すたびに再生／停止を繰り返します。
スロー再生	〈〉を回すとスロー再生の速さを変えることができます。画面右上に速さの度合いが表示されます。
先頭フレーム	動画の先頭画面を表示します。
フレーム戻し	〈SET〉を押すたびに1コマ戻します。〈SET〉を押し続けると、早戻しします。
フレーム送り	〈SET〉を押すたびに1コマ送ります。〈SET〉を押し続けると、早送りします。
最終フレーム	動画の最終画面を表示します。
編集	編集画面を表示します（1DX p.268）。
	再生位置
hh:mm:ss	再生時間（hh：時、mm：分、ss：秒／［**動画再生カウント：記録時間**］設定時）
hh:mm:ss:ff	タイムコード（hh：時、mm：分、ss：秒、ff：フレーム／［**動画再生カウント：タイムコード**］設定時）
音量	〈〉を回すと、内蔵スピーカー（p.58）、またはヘッドフォンの音量を調整することができます。



- フル充電のバッテリーパック LP-E4Nで連続再生できる時間は、常温（+23℃）で約3時間45分です。
- カメラをテレビに接続して動画を再生するときは（1DX p.273、276）、テレビ側で音量の調整を行ってください（〈〉を回しても音量は変わりません）。
- 動画撮影中に静止画を撮影した場面では、約1秒間、静止した映像が表示されます。

INFO.：撮影情報の内容

動画の例



4K で撮影した動画をHDMI出力で再生したときは、フルHD画質（1080 60i/50i）で再生されます。なお、EOS MOVIE Utility（p.95）を使用すると、4K 画質で再生することができます。

記載されていない内容については、1DX 252ページ「静止画の例」を参照してください。

2

資料

この章では、EOS-1D X使用説明書に対するその他の主な違い、システムアクセサリー、よくある質問（FAQ）などについて説明しています。

EOS-1D X使用説明書との違いについて

EOS-1D C使用説明書は、3ページ『使用説明書について』で説明したとおり、動画撮影を中心に説明しています。EOS-1D X使用説明書（Ver.1.1.0以上）に対するそのほかの主な違いについては、以下のとおりです。

各部の名称：背面表示パネル （1DX p.26）

背面表示パネルに動画記録サイズは表示されません。

カメラの機能設定を初期状態に戻す （1DX p.58〜60）

EOS-1D Cの初期設定は以下のようになります。

撮影機能関係

撮影モード	**M**（マニュアル露出）
ISO感度	400
ホワイトバランス	太陽光

動画撮影関係

LV撮影/動画設定	動画
タイムコード	
HDMI	そのまま
動画撮影ボタン	測光/M-Fnボタン
HDMI出力+液晶	同時表示する
Canon Log設定	切
ビューアシスト	切
シャープネス／彩度／色相	0
HDMI出力フレームレート	自動

MENU カメラ設定の保存と読み込み （1DX p.351〜353）

EOS-1D Cでは、以下の項目が追加保存されます。

［撮影5（動画）］

HDMI出力+液晶、Canon Log設定

［設定3］

HDMI出力フレームレート

C: カスタム撮影モードの登録 （1DX p.354～356）

EOS-1D Cでは、以下の項目が追加登録されます。

［5（動画）］

HDMI出力+液晶、Canon Log設定

［3］

HDMI出力フレームレート



［Canon Log］を［入］にすると、カスタム撮影モード〈C1〉〈C2〉〈C3〉設定時も、撮影モードが〈M〉に切り換わります。なお、［登録内容の自動更新］が［する］に設定されているときは、撮影モードの自動更新にご注意ください。

各撮影モードで設定できる機能一覧 （1DX p.358、359）

EOS-1D Xとの違いは以下のとおりです。

機能			動画撮影
静止画：全記録画質の選択			（静止画）*4
ピクチャースタイル			○*5
Canon Logガンマ			○
オートライティングオプティマイザ			○*5
レンズ光学補正*6	周辺光量補正		○
	色収差補正		○*5
高輝度側・階調優先			○*5
AF	AFモード	ワンショットAF	AFLive / AF ⁚) / AFQuick *7
		AIサーボAF	

*4：4K, S35, 1920：60/50設定時は、静止画撮影できません。

*5：Canon Logガンマ設定時は機能しません。

*6：EFシネマレンズ使用時は補正されません（補正データが用意されていません）。

*7：Canon Logガンマ設定時はAFできません。



違いとして説明していない機能については、基本的にEOS-1D Xに準じます。

記録画質を設定する：画像サイズを選ぶときの目安（約）

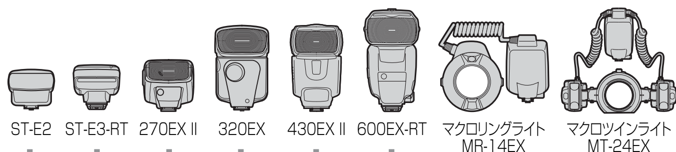
（1DX p.124）

太枠の「連続撮影可能枚数」のみEOS-1D Xと異なります。

画像サイズ	記録画素数	印刷サイズ	ファイルサイズ（MB）	撮影可能枚数	連続撮影可能枚数
L	18M	A2程度	6.0	1200	100（160）
M1	14M	A3以上	4.8	1470	150（280）
M2	8.0M	A3程度	3.3	2170	290（860）
S	4.5M	A4程度	2.1	3290	1190（6310）
RAW	18M	A2程度	23.2	280	27（29）
RAW＋L	18M＋18M	—	23.2+6.0	230	17（17）
RAW＋M1	18M＋14M		23.2+4.8	240	17（17）
RAW＋M2	18M+8.0M		23.2+3.3	250	17（17）
RAW＋S	18M+4.5M		23.2+2.1	260	17（17）
M RAW	10M	A3程度	18.3	350	25（27）
M RAW＋L	10M＋18M	—	18.3+6.0	270	18（18）
M RAW＋M1	10M＋14M		18.3+4.8	280	18（18）
M RAW＋M2	10M+8.0M		18.3+3.3	300	18（18）
M RAW＋S	10M+4.5M		18.3+2.1	320	19（19）
S RAW	4.5M	A4程度	13.0	490	38（40）
S RAW＋L	4.5M＋18M	—	13.0+6.0	340	18（18）
S RAW＋M1	4.5M＋14M		13.0+4.8	360	18（18）
S RAW＋M2	4.5M+8.0M		13.0+3.3	400	19（19）
S RAW＋S	4.5M+4.5M		13.0+2.1	420	19（19）

- ファイルサイズ、撮影可能枚数、連続撮影可能枚数は、当社試験基準8GBのカードを使用し、当社試験基準（JPEG画質：8、ISO100、ピクチャースタイル：スタンダード設定時）で測定したものです。**これらの数値は、被写体やカードの銘柄、ISO感度、ピクチャースタイル、カスタム機能などの設定により変動します。**
- 連続撮影可能枚数（バースト枚数）は、〈H〉高速連続撮影時の数値です。なお、（ ）内の数値は、当社試験基準Ultra DMA（UDMA）モード7対応、128GBカード使用時の枚数です。

システム図



90EX

主な付属品

アングル
ファインダーC

アイカップEg

ワイドストラップ
L7

視度補正レンズEg

アンチフォグ
アイピースEg

フォーカシング
スクリーンEcシリーズ

ハンドストラップ
E2

リチウム電池CR2025

EOS DIGITAL
Solution Disk

ソフトウェア
使用説明書

ケーブル
プロテクター／
クランパー

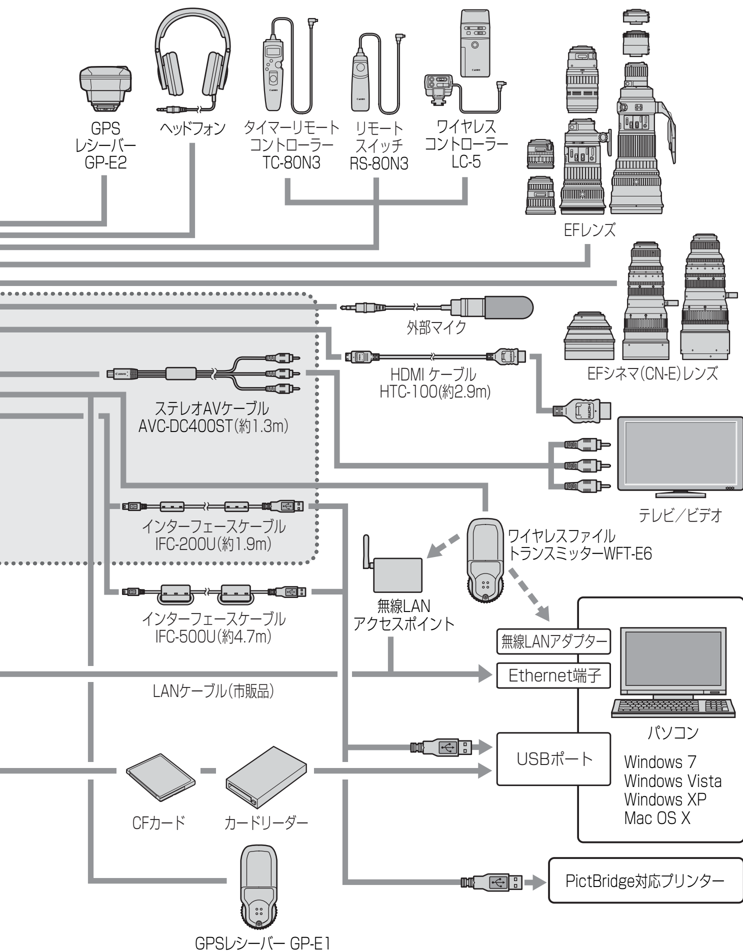
バッテリーパック LP-E4N

バッテリーチャージャー
LC-E4N

ACアダプターキット
ACK-E4

カーバッテリーケーブル
CB-570

* バッテリーパック LP-E4、バッテリーチャージャー LC-E4を使用することもできます。


GPS
レシーバー
GP-E2
ヘッドフォン
タイマーリモート
コントローラー
TC-80N3
リモート
スイッチ
RS-80N3
ワイヤレス
コントローラー
LC-5
EFレンズ
EFシネマ(CN-E)レンズ
外部マイク
HDMI ケーブル
HTC-100(約2.9m)
ステレオAVケーブル
AVC-DC400ST(約1.3m)
テレビ/ビデオ
インターフェースケーブル
IFC-200U(約1.9m)
ワイヤレスファイル
トランスミッターWFT-E6
インターフェースケーブル
IFC-500U(約4.7m)
無線LAN
アクセスポイント
無線LANアダプター
Ethernet端子
LANケーブル(市販品)
パソコン
USBポート
Windows 7
Windows Vista
Windows XP
Mac OS X
CFカード
カードリーダー
PictBridge対応プリンター
GPSレシーバー GP-E1

メニュー機能

動画撮影時

撮影4（動画）（赤） 参照頁

LV/設定	しない／静止画／動画	16
AFモード	ライブモード／ライブモード／クイックモード	51
グリッド	表示しない／9分割／24分割／9分割+対角	51
動画記録サイズ	4K：4096×2160（24）（MJPG） S35：1920×1080（30／25／24）（ALL-I／IPB） 1920×1080（60／50）（ALL-I） 1920×1080（30／25／24）（ALL-I／IPB） 1280×720（60／50）（ALL-I／IPB） 640×480（30／25）（IPB）	34
録音	録音：オート／マニュアル／しない	39
	録音レベル	
	ウィンドカット：切／入	
LV静音撮影	モード1／モード2／しない	52
測光タイマー	4秒／16秒／30秒／1分／10分／30分	52

：撮影5（動画）（赤）

		参照頁
タイムコード	カウントアップ／スタート時間設定／動画記録カウント／動画再生カウント*／HDMI／ドロップフレーム	47
動画サイレント設定	有効／無効	42
動画撮影ボタン	／／	52
HDMI出力+液晶	同時表示する／同時表示しない	53
Canon Log設定	Canon Log／ビューアシスト／シャープネス／彩度／色相	43

* ［3］タブの［**動画再生カウント**］と設定が連動します（1DX p.372）。

：機能設定 3（黄）

ビデオ出力方式	NTSC／PAL	1DX 237 1DX 276
バッテリー情報	電源／残容量／撮影回数／劣化度	1DX 364
センサークリーニング	自動クリーニング：する／しない	1DX 298
	今すぐクリーニング	
	手作業でクリーニング	1DX 301
通信機器の設定	有線LAN*、およびWFT-E6（別売）による無線LANの設定	有線LAN説明書
GPS機器の設定	GPSレシーバー GP-E1／GP-E2（別売）装着時に設定可能	–
HDMI出力フレームレート	自動／24ｐ／60i/50i	54

故障かな？と思ったら

白い🌡と赤い🌡が表示される

- カメラ内部の温度が上昇していることを示しています。白い〈🌡〉が表示されたときは、静止画の画質が低下することがあります。赤い〈🌡〉が表示されたときは、もうすぐ動画撮影が自動的に終了することを示しています（p.55）。

動画撮影が勝手に終了する

- 書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画撮影が自動的に終了することがあります。各動画記録画質で必要な書き込み/読み取り速度（要求カード性能）については、17ページを参照してください。なお、カードの書き込み/読み取り速度については、カードメーカーのホームページなどで確認してください。
- 事前にテスト撮影を行い、設定した動画記録画質（p.34）でカードに正しく記録できるかどうか確認してください。

ISO感度が設定できない

- 動画撮影時に撮影モードが〈**P**/**Tv**/**Av**/**BULB**〉のときは、ISO感度が自動設定されます。〈**M**〉モードのときは、ISO感度を任意に設定することができます（p.24）。

ISO32000/40000/51200が設定できない

- ［📷2：ISO感度に関する設定］の［ISO感度設定範囲］の［上限値］を［51200/H］以上に設定すると、手動設定範囲の上限が拡張され、動画撮影時にISO32000/40000/51200が設定できるようになります。ただし、動画撮影時のISO32000/40000/51200は、ノイズが多いことがあるため、拡張ISO感度になります（「**H**」表示）。

動画撮影にすると手動設定したISO感度が変わる

- ［**ISO 感度設定範囲**］の［**上限値:51200**］設定時に、ISO32000/40000/51200に設定した状態で動画撮影にすると、ISO25600に切り換わります（動画マニュアル露出撮影時）。静止画撮影にしても、元の感度には戻りません。
- L（50）設定時に動画撮影にすると、ISO感度がISO100に切り換わります（動画マニュアル露出撮影時）。静止画撮影にしても、元の感度には戻りません。

映像の周辺部分が暗い

- EFシネマズームレンズ使用時は、S35に設定してください。S35以外の設定で撮影すると、映像の周辺部分が暗く写ります。

露出が変化する

- 動画撮影中にシャッター速度や絞り数値の変更を行うと、露出変化が記録されることがあります。
- 開放絞り数値が変化するレンズ、変化しないレンズに関わらず、動画撮影中にズーム操作を行うと、露出変化が記録されることがあります。

被写体がゆがむ

- 動画撮影中にカメラを素早く左右に動かしたり（高速パンニング）、動きのある被写体を撮影すると、像がゆがんで写ることがあります。

画面がちらつく／横縞が写る

● 蛍光灯やLED電球などの光源下で動画撮影を行うと、画面のちらつきや、横縞（ノイズ）や露出ムラが記録されることがあります。また、露出（明るさ）や色あいの変化が記録されることがあります。なお、〈**M**〉モードのときは、シャッター速度を遅くすると、この現象が緩和されることがあります。

動画撮影中に静止画を撮影すると、動画撮影が終了する

● 動画撮影中に静止画を撮影するときは、17ページに記載した「要求カード性能」以上のカードの使用をおすすめします。
● 静止画の画像サイズを小さくしたり、連続撮影する枚数を少なくすると、改善することがあります。

動画撮影時に静止画が撮影できない

● ［**[撮影]5：動画撮影ボタン**］を［[M-Fn]］に設定してください。
● Canon Logガンマ、および[4K]，[S35]，[1920]：[60]/[50] 設定時は、動画撮影時に静止画は撮影できません。
● EF シネマズームレンズは、35mm フルサイズの撮像素子のイメージサイズに対応していないため、静止画撮影はできません（画像の周辺部分が暗く写ります）。

静止画撮影時にレンズ光学補正が行われない

● EFシネマレンズを使用して静止画撮影を行ったときは、周辺光量補正、色収差補正は行われません。

タイムコードがずれる

● 動画撮影中に静止画を撮影すると、実時間とタイムコードに差が生じます。タイムコードを利用して動画編集を行うときは、動画撮影中に静止画撮影を行わないことをおすすめします。

撮影モードが〈M〉になる／ISOオートで撮影できない

- Canon Logガンマを設定すると、撮影モードが自動的にマニュアル露出に切り換わります。また、ISOオートに設定されているときは、自動的にISO感度手動設定に切り換わります（p.43）。

縦縞状のノイズが発生する

- Canon Logガンマ設定時は、被写体条件や撮影条件により、映像に縦縞状のノイズが発生することがあります。44ページを参照してください。

高輝度側・階調優先などが設定できない

- Canon Logガンマ設定時は、（動画撮影時に）ピクチャースタイル、オートライティングオプティマイザ、高輝度側・階調優先は設定できません（機能しません）。

表示される映像が暗い／コントラストが低い

- Canon Logガンマが設定されています。必要に応じてビューアシストを設定してください（p.43、45）。

ビューアシスト表示が行われない

- 4K以外の動画記録画質でHDMI出力を行ったときは、ビューアシスト表示は行われません（Canon Logガンマ特性の映像が出力されます）。
- 動画再生時にビューアシスト表示は行われません。

Canon Logガンマのマークが点滅する

- Canon Logガンマ設定時に、［**周辺光量補正**］が［**する**］に設定されているときは、動画の周辺部分にノイズが発生することがあるため、情報表示画面のCanon Logガンマのマークが点滅します。

AFができない

- Canon Logガンマ設定時は、AFはできません。
- 4K，S35，1920：60／50設定時は、AFQuickモードでのAFはできません。なお、AFモードをAFQuickに設定していても、動画撮影中はAFLiveに切り換わります。

HDMI出力時にタイムコードが付加されない

- 動画記録画質のフレームレート設定とNTSC/PALのフレームレートが混在し、組み合わせが適切でないときは、HDMI出力映像にタイムコードは付加されません。

HDMI出力による映像が一時フレームストップする

- 動画撮影を終了したときは、HDMI出力による映像が一時的に停止します（フレームストップ）。カードへの書き込み処理が終了すると、正常に出力されます。

HDMIケーブルの接続/取り外しを行うと動画撮影が終了する

- 動画撮影中にHDMIケーブルの接続や取り外しを行うと、動画撮影が終了します。HDMI出力を行いながら動画撮影を行うときは、不用意にケーブルが外れないように、付属のケーブルプロテクター／クランパーの使用をおすすめします。

動画再生関連

動画が再生できない

- パソコンで編集した動画は、カメラで再生できません。
- Canon Logガンマで撮影した動画、および4K，1920：60/50 で撮影した動画は、他のEOSデジタルカメラでは再生できません。

動画を再生すると操作音や作動音がする

- 動画撮影中にダイヤル操作やレンズ操作を行うと、その操作音も録音されます。市販の外部マイクの使用をおすすめします（p.40）。

動画が一瞬止まって見える

- 自動露出撮影時に、大きな露出変化が生じると、明るさが安定するまでの一瞬の間、記録を止める仕様になっています。このようなときは、〈**M**〉モードで撮影してください（p.23）。

テレビに画像が表示されない

- 付属のステレオAVケーブルを使用してください（1DX p.276）。
- ステレオAVケーブル、またはHDMIケーブルのプラグが根元までしっかりと差し込まれているか確認してください（1DX p.273、276）。
- ビデオ出力方式（NTSC/PAL）をテレビと同じ方式に設定してください（1DX p.276）。
- ［**5：HDMI出力+液晶**］が［**同時表示する**］に設定されているときに画像を再生しても、HDMI出力先のテレビに画像は表示されません。

動画ファイルが複数作成される

- 1 回の撮影（1 クリップ）でファイルサイズが 4GB を超えるときは、動画ファイルが複数作成されます（p.37）。

主な仕様

■型式

型式……………………………… デジタル一眼レフレックスAF・AEカメラ
記録媒体………………………… CFカード（タイプI, II準拠、UDMAモード 7対応）
* CFカード対応デュアルカードスロット
撮像画面サイズ ………………… 約36.0×24.0mm
使用レンズ……………………… ①キヤノンEFレンズ群（EF-S、EF-Mレンズを除く）
②キヤノンEFシネマ（CN-E）レンズ群（EFマウント）
* 有効撮影画角は、表記焦点距離の等倍に相当
* ②のズームレンズ使用時は、スーパー 35mmクロップ動画のみ対応（静止画撮影、および4K、フルHD、HD、SD動画には非対応）
レンズマウント ………………… キヤノンEFマウント

■撮像素子

形式……………………………… CMOSセンサー
カメラ部有効画素 ……………… 約1810万画素
アスペクト比 …………………… 3：2
ダスト除去機能 ………………… 自動/手動/ダストデリートデータ付加

■記録形式

記録フォーマット ……………… DCF2.0
画像タイプ……………………… JPEG、RAW（14bit、キヤノン独自）
RAW+JPEG同時記録可能
記録画素数……………………… L（ラージ）　　：約1790万（5184×3456）画素
M1（ミドル1）：約1420万（4608×3072）画素
M2（ミドル2）：約800万（3456×2304）画素
S（スモール）　：約450万（2592×1728）画素
RAW（ロウ）　：約1790万（5184×3456）画素
M-RAW　　　：約1010万（3888×2592）画素
S-RAW　　　　：約450万（2592×1728）画素
JPEG画質 ……………………… 10段階
記録機能………………………… 標準、カード自動切り換え、振り分け、同一書き込み
フォルダ作成／選択…………… 可能
ファイル名……………………… カメラ固有設定、ユーザー設定1、ユーザー設定2
画像番号………………………… 通し番号、オートリセット、強制リセット

■撮影時の画像処理

ピクチャースタイル..........オート、スタンダード、ポートレート、風景、ニュートラル、忠実設定、モノクロ、ユーザー設定1～3
ホワイトバランス.............オート、プリセット（太陽光、日陰、くもり、白熱電球、白色蛍光灯、ストロボ）、マニュアル、色温度指定（約2500～10000K）、カスタムホワイトバランス（5件）、ホワイトバランス補正、ホワイトバランスブラケティング可能
* ストロボ色温度情報通信対応
ノイズ低減.........................長秒時露光、高感度撮影に対応
画像の明るさ自動補正......オートライティングオプティマイザにより対応
高輝度側・階調優先..........可能
レンズ光学補正.................周辺光量補正、色収差補正

■ファインダー

方式....................................ペンタプリズム使用、アイレベル式
視野率................................上下/左右とも約100%（アイポイント約20mm時）
倍率....................................約0.76倍（50mmレンズ・∞・－1m^{-1}）
アイポイント.....................約20mm（－1m^{-1}時／接眼レンズ中心から）
視度調整範囲.....................約－3.0～+1.0m^{-1}（dpt）
アイピースシャッター......内蔵
フォーカシングスクリーン...Ec-C V標準装備、交換可能
AF作動表示.......................あり
グリッド表示.....................可能
水準器表示.........................水平方向：1°ステップ ±6°
垂直方向：1°ステップ ±4°
* 横位置撮影時
ミラー................................クイックリターン式
被写界深度確認.................可能

■オートフォーカス

方式....................................TTL二次結像位相差検出方式
測距点................................61点（クロス測距点：最大41点）
* 使用レンズにより、測距点数、クロス測距点数が変動する
測距輝度範囲.....................EV －2～18（中央F2.8対応測距点・常温・ISO100）
フォーカスモード.............ワンショットAF、AIサーボAF、手動（MF）
測距エリア選択モード......スポット1 点AF（任意選択）、1 点AF（任意選択）、領域拡大AF（任意選択上下左右）、領域拡大AF（任意選択周囲）、ゾーンAF（ゾーン任意選択）、61点自動選択AF

測距点自動選択条件.......... EOS iTR AFの設定による（色情報、顔情報を使用したAFが可能）
* iTR：Intelligent Tracking Recognition

AFカスタム
設定ガイド機能 .... Case1～6

AIサーボ特性.................... 被写体追従特性、速度変化に対する追従性、測距点乗り移り特性

AF微調整.......................... AFマイクロアジャストメントにより対応（全レンズ一律調整、レンズごとに調整）

AF補助光.......................... EOS用外部ストロボのAF補助光による

■露出制御

測光方式............................ 約10万画素RGB測光センサー使用、252分割TTL開放測光
EOS iSA（Intelligent Subject Analysis）システム
・評価測光（すべてのAFフレームに対応）
・部分測光（中央部・ファインダー画面の約6.5%）
・スポット測光（中央部・ファインダー画面の約2.5%）
・中央部重点平均測光

測光範囲............................ EV 0～20（常温・EF50mm F1.4 USM使用・ISO100）
* スポット測光時：EV2～20

露出制御方式.................... プログラムAE、シャッター優先AE、絞り優先AE、マニュアル露出、バルブ

ISO感度............................ ISOオート、ISO 100～51200任意設定
（推奨露光指数） （1/3、1段ステップ）、およびL（50）、H1（102400相当）、H2（204800相当）の感度拡張が可能

ISO感度関連設定............. ISO感度設定範囲、ISOオート範囲、ISOオート低速限界設定可能

露出補正............................ 手動：1/3、1/2段ステップ±5段
AEB：1/3、1/2段ステップ±3段（手動露出補正との併用可能）

AEロック.......................... 自動：ワンショットAF・評価測光時、合焦と同時にAEロック
手動：AEロックボタンによる

露出基準微調整 .... AEマイクロアジャストメントにより対応

■多重露出撮影

撮影方法............................機能・操作優先、連続撮影優先
多重枚数............................2～9枚
多重露出制御.....................加算、加算平均、比較（明）、比較（暗）

■シャッター

形式....................................電子制御式、フォーカルプレーンシャッター
シャッター速度.................1/8000～30秒、バルブ（すべての撮影モードを合わせて）
ストロボ同調最高シャッター速度=1/250秒

■ドライブ関係

ドライブモード.................1枚撮影、高速連続撮影、低速連続撮影、セルフタイマー：10秒、セルフタイマー：2秒、1枚：静音動作、超高速連続撮影
連続撮影速度.....................超高速連続撮影：最高約14コマ/秒
高速連続撮影：最高約12コマ/秒
低速連続撮影：最高約3コマ/秒
* ISO32000以上（カメラ内部の温度が低温状態のときはISO20000以上）のときは、高速連続撮影時の連続撮影速度が最高約10コマ/秒となる
連続撮影可能枚数.............JPEGラージ：約100枚（約160枚）
RAW：約27枚（約29枚）
RAW+JPEGラージ：約17枚（約17枚）
* 高速連続撮影時
* 当社試験基準8GBカードを使用し、当社試験基準（ISO100、ピクチャースタイル：スタンダード）で測定
*（　）内の数値は、当社試験基準UDMAモード7対応、128GBカード使用時の枚数

■外部ストロボ

対応ストロボ.....................EXシリーズスピードライト
調光方式............................E-TTL II自動調光
ストロボ調光補正.............1/3、1/2段ステップ±3段
FEロック...........................可能
調光基準微調整..................FEマイクロアジャストメントにより対応
外部ストロボ制御.............可能
* 電波通信ワイヤレスストロボ撮影対応

■ライブビュー撮影機能

フォーカスモード............ライブモード、顔優先ライブモード（コントラスト検出方式）、クイックモード（位相差検出方式）、手動ピント合わせ（約5倍/10倍拡大可能）
測距輝度範囲....................EV 1～20（コントラスト検出方式時／常温・ISO100）
測光方式............................撮像素子による評価測光
測光範囲............................EV 0～20（常温・EF50mm F1.4 USM使用・ISO100）
静音撮影............................可能（モード1、2）
グリッド表示....................3種類

■動画撮影機能

記録形式............................MOV形式
　映像..............................4K：Motion JPEG
スーパー 35mmクロップ、フルHD、HD、SD：
MPEG-4 AVC/H.264、可変（平均）ビットレート方式、
ALL-I（I-only）、IPB
　音声..............................リニアPCM
記録サイズと
フレームレート................4K：4096×2160　24p
スーパー 35mmクロップ：1920×1080　30p/25p/24p
フルHD：1920×1080　60p/50p/30p/25p/24p
HD：1280×720　60p/50p
SD：640×480　30p/25p
* 60p：59.94fps、50p：50.00fps、30p：29.97fps、25p：25.00fps、24p：23.976fps
* レンズ表記焦点距離に対する有効撮影画角は、4K：約1.3倍、スーパー 35mmクロップ：約1.6倍
ファイルサイズ................4K（24p）　：約3.76GB/分
スーパー 35mmクロップ（30p/25p/24p）/IPB　：約385MB/分
スーパー 35mmクロップ（30p/25p/24p）/ALL-I　：約685MB/分
フルHD（60p/50p）/ ALL-I　：約1.36GB/分
フルHD（30p/25p/24p）/ IPB　：約235MB/分
フルHD（30p/25p/24p）/ ALL-I　：約685MB/分
HD（60p/50p）/ IPB　：約205MB/分
HD（60p/50p）/ ALL-I　：約610MB/分
SD（30p/25p）/ IPB　：約78MB/分

カラーサンプリング.........YCbCr 4:2:2（8bit）：4K
YCbCr 4:2:0（8bit）：スーパー 35mmクロップ、フル HD、HD、SD
カラーマトリックス.........Rec. ITU-R BT.601：4K、SD
Rec. ITU-R BT.709：スーパー 35mmクロップ、フル HD、HD
画素レンジ.........8bit、0～255（Canon Logガンマ設定時：8bit、16～254）
映像特性.........①Canon Logガンマ、②ピクチャースタイル選択可能
* ①設定時ビューアシスト可能
要求カード性能.........4K：UDMA7 100MB/秒以上
（書き込み/読み取り速度）フルHD 60p/50p：60MB/秒以上
スーパー 35mmクロップ/IPB：20MB/秒以上
上記以外：IPB: 10MB/秒以上、ALL-I：30MB/秒以上
フォーカスモード.........ライブビュー撮影機能のフォーカスモードに準ずる
* Canon Logガンマ設定時：AF不可
* 4K、スーパー 35mmクロップ、フルHD 60p/50p設定時：クイックモードでのAF不可
測光方式.........撮像素子による中央部重点平均測光、および評価測光
* フォーカスモードにより自動設定
測光範囲.........EV 0～20（常温・EF50mm F1.4 USM使用・ISO100）
露出制御.........①自動露出撮影、②シャッター優先AE撮影、③絞り優先AE撮影、④マニュアル露出撮影
* ①②③は露出補正、AEロック可能
露出補正.........1/3段ステップ±3段（静止画±5段）
ISO感度.........P, Av, BULB：
（推奨露光指数）ISO100～25600自動設定、H（51200相当）、H1（102400相当）、H2（204800相当）の感度拡張が可能
Tv：ISO100～25600自動設定
M：ISOオート（ISO100～25600自動設定）、ISO100～25600手動設定（1/3、1段ステップ）、H（32000/40000/51200相当）、H1（102400相当）、H2（204800相当）の感度拡張が可能
タイムコード.........対応
ドロップフレーム.........60p/30p対応
録音.........内蔵モノラルマイク、外部ステレオマイク端子装備
録音レベル調整可能、ウィンドカット機能搭載
ヘッドフォン.........ヘッドフォン端子装備
グリッド表示.........3種類

静止画................................ 撮影可能
* Canon Log ガンマ設定時、および4K、スーパー 35mmクロップ、フルHD 60p/50p設定時静止画撮影不可
2画面表示.......................... 液晶モニターとHDMI出力映像の同時表示可能
HDMI出力 .... 情報表示なし映像を出力可能
* 自動/24p/60i/50iから選択可能
アクセサリー取り付け...... 底面に回転防止用の位置決め穴を装備

■液晶モニター
形式.................................... TFT式カラー液晶モニター
画面サイズ/ドット数....... ワイド3.2型（3：2）／約104万ドット
明るさ調整......................... 手動（7段階）
水準器表示......................... 可能
メニュー表示言語 .... 日本語、英語、簡体字中国語
機能ガイド......................... 表示可能
カメラシステム情報.......... 確認可能

■再生機能
画像表示形式..................... 1枚表示、1枚＋情報表示（簡易情報、撮影情報、ヒストグラム）、4枚インデックス、9枚インデックス
ハイライト警告 .... ハイライト部分点滅表示
AFフレーム表示 .... 可能
グリッド表示..................... 3種類
拡大ズーム倍率 .... 約1.5～10倍、拡大開始倍率/開始位置設定可能
画像送り............................ 1枚/10枚/100枚/撮影日/フォルダ/動画/静止画/レーティング
画像回転............................ 可能
レーティング..................... 可能
動画再生............................ 可能（液晶モニター、映像/音声出力、HDMI出力）
スピーカー内蔵
スライドショー .... 全画像/日付/フォルダ/動画/静止画/レーティング
画像プロテクト .... 可能
音声メモ............................ 記録/再生可能
画像コピー......................... 可能

■撮影後の画像処理
カメラ内RAW現像........... 明るさ補正、ホワイトバランス、ピクチャースタイル、オートライティングオプティマイザ、高感度撮影時のノイズ低減、JPEG記録画質、色空間、周辺光量補正、歪曲補正、色収差補正
リサイズ............................ 可能

■ダイレクトプリント機能
対応プリンター.................PictBridge対応プリンター
印刷対応画像....................JPEG画像、RAW画像
印刷指定...........................DPOF バージョン1.1準拠

■有線LAN
Ethernet..........................10BASE-T、100BASE-TX、1000BASE-T
FTP転送...........................撮影時自動転送、画像選択/転送、SETボタンで転送、キャプション付きで転送
EOS Utility......................EOS Utilityのリモートコントロール機能を有線LANで行う
WFTサーバー...................詳細撮影/簡易撮影/単純撮影
画像の閲覧/取り込み
メディアサーバー.............DLNA対応
マルチカメラタイム
シンクロ機能....................マスターカメラの時刻を10台のスレーブカメラに設定可能
マスターカメラとの設定誤差±約0.05秒

■画像転送機能
転送対応画像....................静止画（JPEG画像、RAW画像、RAW＋JPEG画像）、動画

■カスタマイズ機能
カスタム機能....................31種
カメラ設定保存.................1枚のカードに最大10件登録可能
カスタム撮影モード.........C1/C2/C3に登録
マイメニュー登録.............可能
著作権情報........................設定/付加可能

■インターフェース
映像/音声出力・
デジタル端子....................アナログ映像（NTSC、PAL対応）/ステレオ音声出力
パソコン通信、ダイレクトプリント（Hi-Speed USB相当）
GPSレシーバー GP-E2接続
HDMIミニ出力端子..........タイプC（解像度自動切り換え）、CEC対応
外部マイク入力端子..........Φ3.5mmステレオミニジャック
ヘッドフォン端子.............Φ3.5mmステレオミニジャック
リモコン端子....................N3タイプのリモコンに対応
イーサーネット端子..........RJ-45端子、ギガビットイーサーネット対応
拡張システム端子.............ワイヤレスファイルトランスミッター WFT-E6、GPSレシーバー GP-E1接続

■電源

使用電池............................バッテリーパックLP-E4N/LP-E4、1個
* ACアダプターキットACK-E4使用により、AC駆動可能
電池情報............................残容量、撮影回数、劣化度確認可能
撮影可能枚数の目安.........ファインダー撮影：
（CIPA試験基準による） 常温（23℃）約1120枚、低温（0℃）約860枚
ライブビュー撮影：
常温（23℃）約290枚、低温（0℃）約250枚
動画撮影可能時間 ....常温（23℃）約1時間25分
低温（0℃）約1時間15分
* フル充電のバッテリーパックLP-E4N使用時、4K撮影時
日付/時計機能用電池.......リチウム電池 CR2025、1個

■大きさ・質量

大きさ................................約158（幅）×163.6（高さ）×82.7（奥行）mm
質量...................................約1545g（CIPAガイドラインによる）／約1355g（本体のみ）

■動作環境

使用可能温度.....................0℃～＋45℃
使用可能湿度.....................85%以下

■バッテリーパック LP-E4N

形式...................................充電式リチウムイオン電池
公称電圧............................DC11.1V
容量...................................2450mAh
大きさ................................約68.4（幅）×34.2（高さ）×92.8（奥行）mm
質量...................................約185g（保護カバー除く）

■バッテリーチャージャー LC-E4N

充電可能電池.....................バッテリーパック LP-E4N/LP-E4
充電時間............................LP-E4N：約130分/1本　LP-E4：約120分/1本
定格入力............................AC100～240V（50/60Hz）
DC12V/24V
定格出力............................DC12.6V 1.55A
電源コード.........................約2m
使用可能温度.....................0℃～＋40℃
使用可能湿度.....................85%以下
大きさ................................約155（幅）×52.8（高さ）×95（奥行）mm
質量...................................約350g（電源コード、保護カバーを除く）

- 記載データはすべて当社試験基準、またはCIPA試験基準/ガイドラインによります。
- 大きさ、最大径、長さ、質量はCIPAガイドラインによります（カメラ本体のみの質量を除く）。
- 製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。
- 他社製のレンズを使用して不具合が生じた場合は、そのレンズメーカーへお問い合わせください。

商標について

- Adobeは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。
- Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国および他の国における商標、または登録商標です。
- Macintosh、Mac OSは、米国および他の国で登録された、米国アップル社の商標、または登録商標です。
- CompactFlash（コンパクトフラッシュ）は、SanDisk Corporationの商標です。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。
- DCF*は、（社）電子情報技術産業協会の団体商標で、日本国内における登録商標です。DCFロゴマークは、（社）電子情報技術産業協会の「Design rule for Camera File System」の規格を表す団体商標です。
- その他、本書中の社名や商品名は、各社の登録商標または商標です。

＊ DCF は、主としてデジタルカメラの画像を関連機器間で簡便に利用しあうことを目的として制定された（社）電子情報技術産業協会（JEITA）の規格の「Design rule for Camera File System」の略称です。

MPEG-4使用許諾について

"This product is licensed under AT&T patents for the MPEG-4 standard and may be used for encoding MPEG-4 compliant video and/or decoding MPEG-4 compliant video that was encoded only (1) for a personal and non-commercial purpose or (2) by a video provider licensed under the AT&T patents to provide MPEG-4 compliant video. No license is granted or implied for any other use for MPEG-4 standard."

* 規定により英語で表記しています。

アクセサリーは、キヤノン純正品のご使用をおすすめします

本製品は、キヤノン純正の専用アクセサリーと組み合わせて使用した場合に最適な性能を発揮するように設計されておりますので、キヤノン純正アクセサリーのご使用をおすすめいたします。

なお、純正品以外のアクセサリーの不具合（例えばバッテリーパックの液漏れ、破裂など）に起因することが明らかな、故障や発火などの事故による損害については、弊社では一切責任を負いかねます。また、この場合のキヤノン製品の修理につきましては、保証の対象外となり、有償とさせていただきます。あらかじめご了承ください。


バッテリーパック LP-E4Nは、キヤノン製品専用です。指定外の充電器、および製品と組み合わせて使用した場合の故障、事故に関しては一切保証できません。

アフターサービスについて

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりは、お客様にてご負担願います。
2. 本製品のアフターサービス期間は、製品製造打切り後7年間です。なお、弊社の判断により、アフターサービスとして同一機種または同程度の仕様製品への本体交換を実施させていただく場合があります。同程度の機種との交換の場合、ご使用の消耗品や付属品をご使用いただけないことや、対応OSが変更になることがあります。
3. 修理品をご送付の場合は、見本の撮影データやプリントを添付するなど、修理箇所を明確にご指示の上、十分な梱包でお送りください。

安全上のご注意

下記注意事項は、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。内容をよく理解してから製品を正しく安全にお使いください。**故障、不具合、破損の際は、弊社修理受付窓口または、お買い上げ販売店にご連絡ください。**

⚠ 警告 下記の注意を守らないと、死亡または重傷を負う可能性が想定されます。

- 発火、発熱、液漏れ、破裂、感電の原因となりますので次のことはしないでください。
  - 指定以外の電池、電源、付属品、変形または改造した電池、破損した製品の使用。
  - 電源パックまたはバックアップ電池のショート、分解、変形、加熱、ハンダ付け、火中、水中投入、強い衝撃を与えること。
  - 電源パックまたはバックアップ電池の＋－を逆に入れること。新品電池と使用済電池、種類の違う電池の混用。
  - 0℃～40℃の範囲外での電源パックの充電。または、指定の充電時間を超える充電。
  - カメラ本体、付属品、接続ケーブル等の接点部に金属を差し込むこと。
- バックアップ電池や付属品は、お子様の手の届かないところへ置いてください。万一飲みこんだ際は、直ちに医師に相談してください。（電池の液で胃腸が冒される恐れがあります）
- 電源パックやバックアップ電池を廃却する時は、接点にテープなどを貼り、絶縁してください。他の金属や電池と混じると発火、破裂の原因となります。
- 電源パックの充電中、電源パックが熱くなる、煙が出る、焦げ臭い等以上状態が起こった場合、直ちに充電器のプラグをコンセントから抜いて充電をやめてください。火災、発熱、感電の原因になります。
- 液漏れ、変色、変形、煙が出る、焦げ臭いなどの異常時は、火傷に十分注意して速やかに電源パックまたはバックアップ電池を抜いてください。そのまま使用すると火災、感電、火傷の原因となります。
- 電源パックの液が目に入ったり、肌や衣服に付着しないように注意してください。失明や皮膚の障害を起こす恐れがあります。万一、液が目に入ったり肌や衣服についたときは、こすらずにすぐきれいな水で洗った後、ただちに医師の治療を受けてください。
- 電源コードを熱器具に近づけないでください。外装が変形したり、コードの被覆が溶けて、火災、感電の原因となります。
- 車の運転者等にむけてストロボを発光しないでください。事故の原因となります。
- ストロボを目に近づけて発光しないでください。視力障害を起こす危険性があります。特に、乳幼児を撮影するときは1m以上離れてください。
- カメラ及び付属品を使用しないときは、電源プラグ及び電源パック、接続ケーブルを外して保管してください。感電、発熱、発火、汚損の原因となることがあります。
- 可燃性ガスの雰囲気中で使用しないでください。爆発、火災の原因となります。

- 落下等により機器内部が露出した際は、露出部に手を触れないでください。感電の危険があります。
- 分解、改造しないでください。内部には高電圧部があり感電の危険があります。
- カメラで、太陽や強い光源を直接見ないようにしてください。視力障害の原因となります。
- 製品は幼児の手の届かないところで使用、保管してください。誤ってストラップや電源コードを首に巻きつけて窒息したり、感電、けがの原因になります。
- 湿気、油煙やほこりの多い場所で使用、保管しないでください。また、電源パックは、ショートを防ぐため、金属類と一緒の保管を避け、付属の保護カバーを取り付けて保管してください。火災、発熱、感電、火傷の原因となります。
- 飛行機内、病院で使用の際は、航空会社、病院の指示に従ってください。本機器が出す電磁波が計器や医療機器などに影響を与える恐れがあります。
- 火災や感電の原因となることがありますので次のことに注意してください。
  - ・電源プラグは確実に奥まで差し込んでください。
  - ・濡れた手で電源プラグにさわらないでください。
  - ・電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。
  - ・電源コードを傷つけたり、無理に曲げたり、重いものを載せたりしないでください。また、束ねたり、結んだりして使用しないでください。
  - ・二股ソケット等を使ったタコ足配線をしないでください。
  - ・断線や被覆のはがれたコードは使用しないでください。
- 電源プラグを定期的に抜き、その周辺およびコンセントに溜まったほこりや汚れを、乾いた布で拭き取ってください。ほこり、湿気、油煙の多いところで、電源プラグを長期間差したままにすると、その周辺に溜まったほこりが湿気を吸って絶縁不良となり、火災の原因になります。
- 電源パックをコンセントや車のシガーライターソケットなどに直接接続しないでください。電池の液漏れ、発熱、破裂により火災、火傷、けがの原因となります。
- お子様が使用の時は、保護者が正しい使用方法を充分に教えてください。また、使用中にもご注意ください。感電、けがの原因となります。

⚠ 注意 下記の注意を守らないと、けがを負う可能性及び物的損害の発生が想定されます。

- 直射日光下の車中など、高温の場所で使用、保管しないでください。製品自体が高温になり、触ると火傷の原因になることがあります。また、電源パックの液漏れ、破裂など、製品の性能や寿命を低下させる原因になることがあります。
- カメラを三脚につけたまま移動しないでください。けがや事故の原因となることがあります。また、三脚はカメラ、レンズに対して十分に強度のあるものをご使用ください。
- レンズやレンズをつけた一眼レフカメラを、レンズキャップを外したまま日光の下に放置しないでください。太陽光が焦点を結び、火災の原因になることがあります。
- 製品を布でおおったり、包んだりして使用しないでください。熱がこもりケースが変化し、火災の原因となることがあります。
- 製品を水に濡らさないでください。万一水に落としたり、内部に水または金属等の異物が入った際は、速やかに電源パックやバックアップ電池を抜いてください。火災、感電、火傷の原因となることがあります。
- シンナーやベンジンなどの有機溶剤を製品の洗浄に使用しないでください。火災や健康障害の原因となることがあります。
- 製品を低温状態に放置しないでください。製品自体が低温になり、触れるとけがの原因となることがあります。
- 製品を使用中に、温度の高くなる部分に直接触れないでください。長時間皮膚が触れたままになっていると、低温火傷の原因となることがあります。
- 同梱の CD-ROM を CD-ROM 対応ドライブ以外では絶対に再生しないでください。音楽用CDプレーヤーで使用した場合は、スピーカーなどを破損する恐れがあります。またヘッドフォンなどをご使用になる場合は、大音量により耳に傷害を負う恐れがあります。

MEMO

MEMO

3

ソフトウェア
スタートガイド

この章では、付属のEOS DIGITAL Solution Disk（CD-ROM）に収録されている、各ソフトウェアの概要と、パソコンへのインストール方法、およびソフトウェア使用説明書（CD-ROM）に収録されているPDFファイルの見かたを説明しています。



EOS DIGITAL Solution Disk
（ソフトウェア）



ソフトウェア使用説明書

ソフトウェアスタートガイド



イオス　デジタル　ソリューション　ディスク
EOS DIGITAL Solution Disk

EOS DIGITAL用の各種ソフトウェアが収録されています。

イオス　ユーティリティー
EOS Utility

　カメラとパソコンを接続し、撮影画像（静止画／動画）のパソコンへの取り込み、カメラの各種設定、パソコン操作によるリモート撮影などを行うソフトウェアです。EOS-1D C接続時は、Picture Style Editorと連携して、リモートライブビュー画面上で効果を確認しながら、最適なピクチャースタイルファイルを作成することもできます。

ピクチャー　スタイル　エディター
Picture Style Editor

　ピクチャースタイルを編集し、オリジナルピクチャースタイルファイルの作成／保存ができます。画像処理上級者向けのソフトウェアです。

デジタル　フォト　プロフェッショナル
Digital Photo Professional

　主にRAW画像を撮影される方におすすめのソフトウェアです。RAW画像の高速閲覧／編集／現像／印刷などができます。JPEG画像もオリジナル画像を残したまま編集することができます。

キヤノンホームページからダウンロード

以下のソフトウェアは、キヤノンのホームページからダウンロードすることができます。

EOS MOVIE Utility for EOS-1D C

（イオス ムービー ユーティリティー）

[Windows版]

撮影した動画の再生や、分割された動画ファイルの連続再生・結合保存を行うことができます。また、動画からの静止画の取り出しなども可能です。

[Macintosh版]

分割された動画ファイルの結合保存を行うことができます。

ソフトウェアのインストール

- ソフトウェアをインストールする前に、カメラとパソコンを絶対に接続しないでください。インストールが正しく行われません。
- 旧バージョンのソフトウェアがインストールされている場合でも、下記の手順に従ってインストールしてください（上書きインストールされます）。

1 EOS DIGITAL Solution Disk （CD-ROM）を入れる

- Macintoshでは、デスクトップ上に表示されたCD-ROMアイコンをダブルクリックして開き、［Canon EOS Digital Installer］をダブルクリックしてください。

2 ［おまかせインストール］をクリックし、画面の指示に従って操作する

- インストール途中に、“Microsoft Silverlight”のインストール画面が表示されたときは、“Microsoft Silverlight”のインストールを行ってください。

3 ［再起動］をクリックし、再起動したらCD-ROMを取り出す

- パソコンが再起動したら、インストール完了です。



ソフトウェア使用説明書

ソフトウェアの使用説明書が収録されています。

使用説明書PDFファイルのコピー方法と見かた

1 パソコンに「ソフトウェア使用説明書」のCD-ROMを入れる

2 CD-ROMのアイコンをダブルクリックする

- Windowsでは、[(マイ) コンピューター] 内に表示されるアイコン
- Macintoshでは、デスクトップ上に表示されるアイコン

3 [Japanese] フォルダをパソコンにコピーする

- 以下の名前の使用説明書PDFファイルがコピーされます。

	Windows	Macintosh
EOS Utility	EUx.xW_J_xx	EUx.xM_J_xx
Picture Style Editor	PSEx.xW_J_xx	PSEx.xM_J_xx
Digital Photo Professional	DPPx.xW_J_xx	DPPx.xM_J_xx

4 コピーしたPDFファイルをダブルクリックする

- パソコンにAdobe Reader（最新版推奨）がインストールされている必要があります。
- Adobe Readerはインターネット上から無料でダウンロードできます。

索　引

英数字

あ

か

さ

た

は

ま

や

ら

MEMO



キヤノン株式会社
キヤノンマーケティングジャパン株式会社
〒108-8011 東京都港区港南2-16-6

製品取り扱い方法に関するご相談窓口

お客様相談センター（全国共通番号）

050-555-90006

受付時間：平日 9：00〜12：00／13：00〜17：00
（土曜・日曜・祝日と年末年始、弊社休業日は休ませていただきます）

修理お問い合わせ専用窓口

カメラ修理受付センター（全国共通番号）

050-555-99077

受付時間：平日、土曜 9：00〜18：00
（日曜・祝日と年末年始、弊社休業日は休ませていただきます）

※ おかけ間違いのないようにご注意ください。
※ 上記番号をご利用いただけない方は、03-5428-1208をご利用ください。
※ IP電話をご利用の場合、プロバイダーのサービスによりつながらない場合があります。
※ 受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

CINEMA EOS SYSTEM サイトのご案内

キヤノンCINEMA EOS SYSTEMのホームページを開設しています。最新の情報が掲載されていますので、インターネットをご利用の方は、お気軽にお立ち寄りください。

canon.jp/cinema-eos

この使用説明書に記載しているレンズ、アクセサリーは、2012年10月時点のものです。それ以降に発売されたレンズ、アクセサリーとの組み合わせにつきましては、上記のお客様相談センターにお問い合わせください。

CPH-J055-000